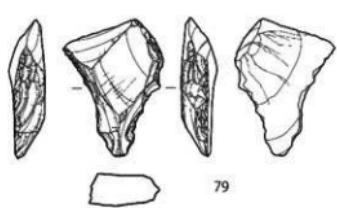
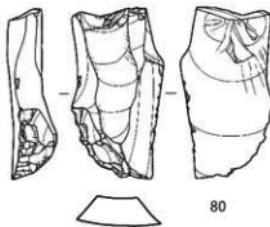


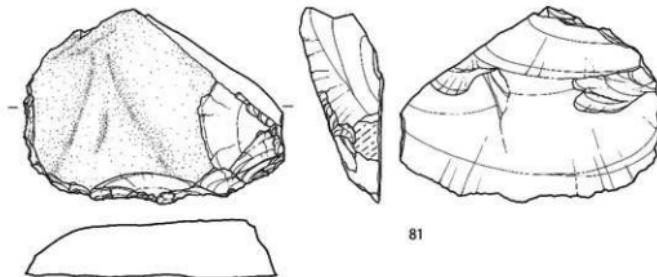
第46圖 第III期石器實測圖 5 ( $S=2/3$ )



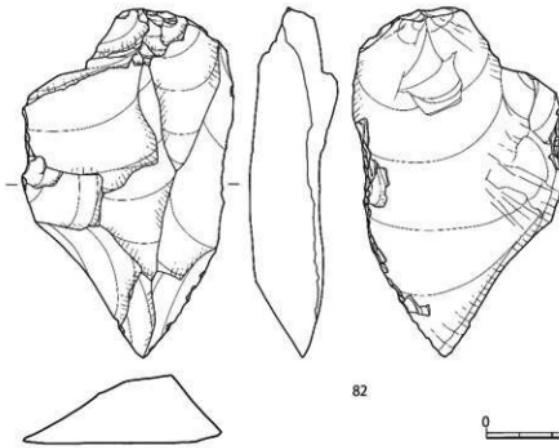
79



80



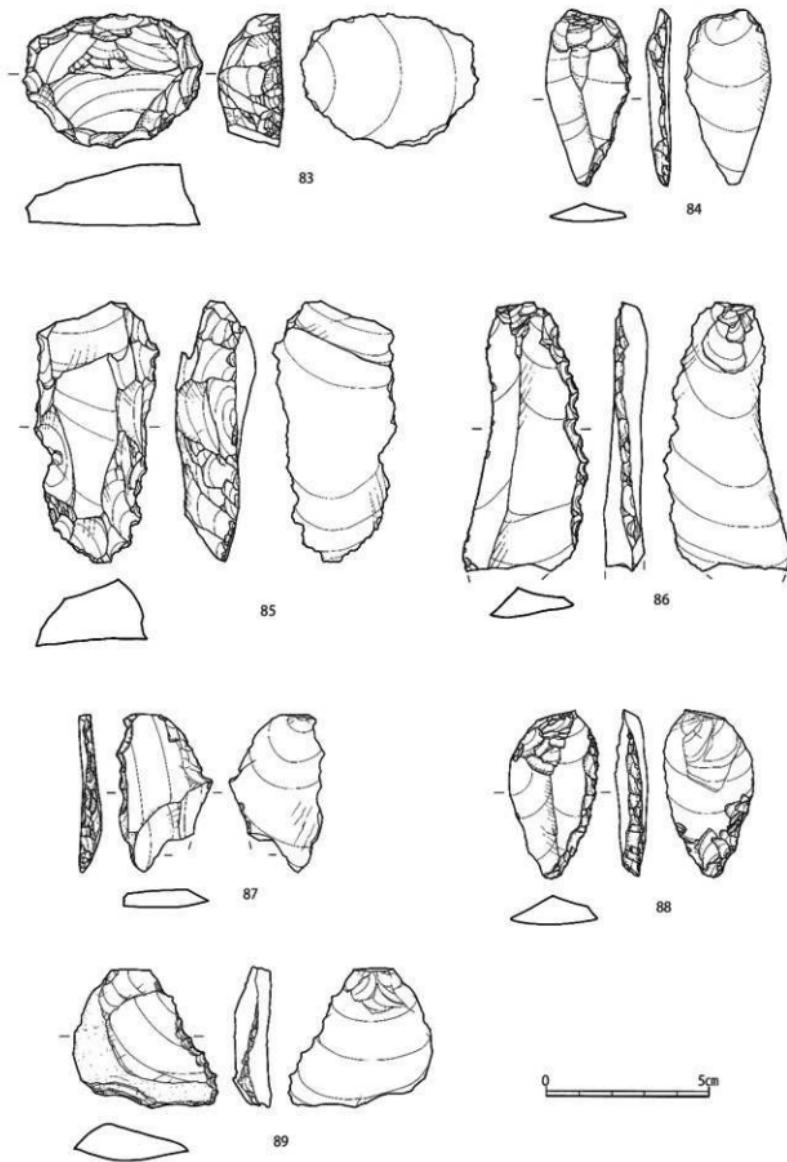
81



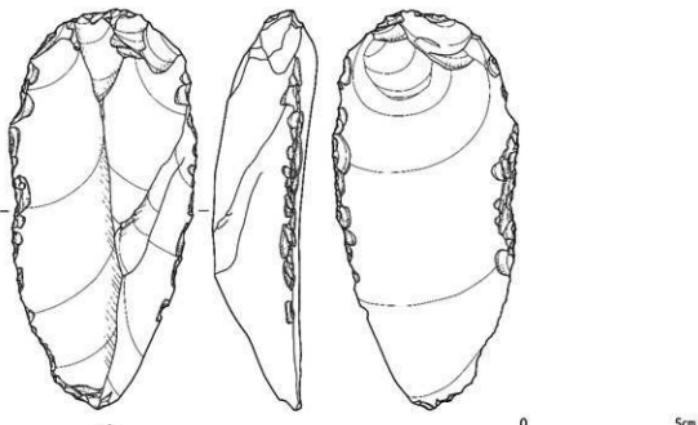
82

0 5cm

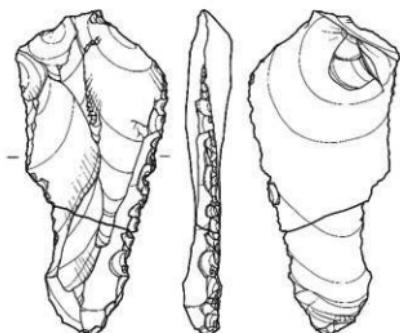
第47圖 第III期石器實測圖 6 (S=2/3)



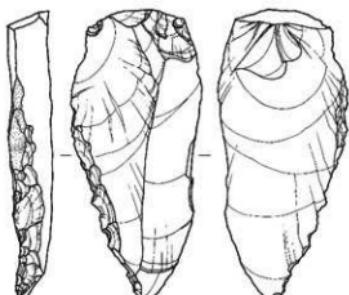
第48图 第Ⅲ期石器实测图7 (S=2/3)



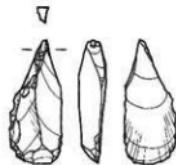
90



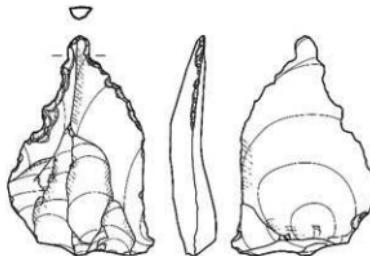
91



92

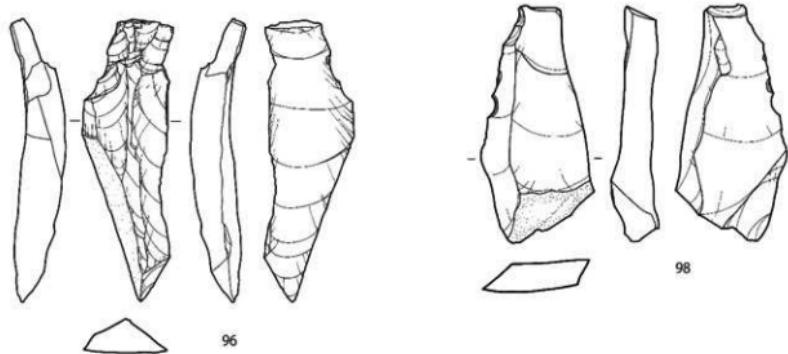
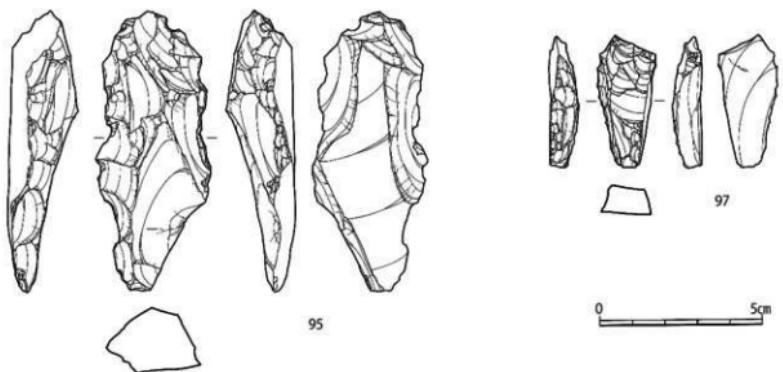


93

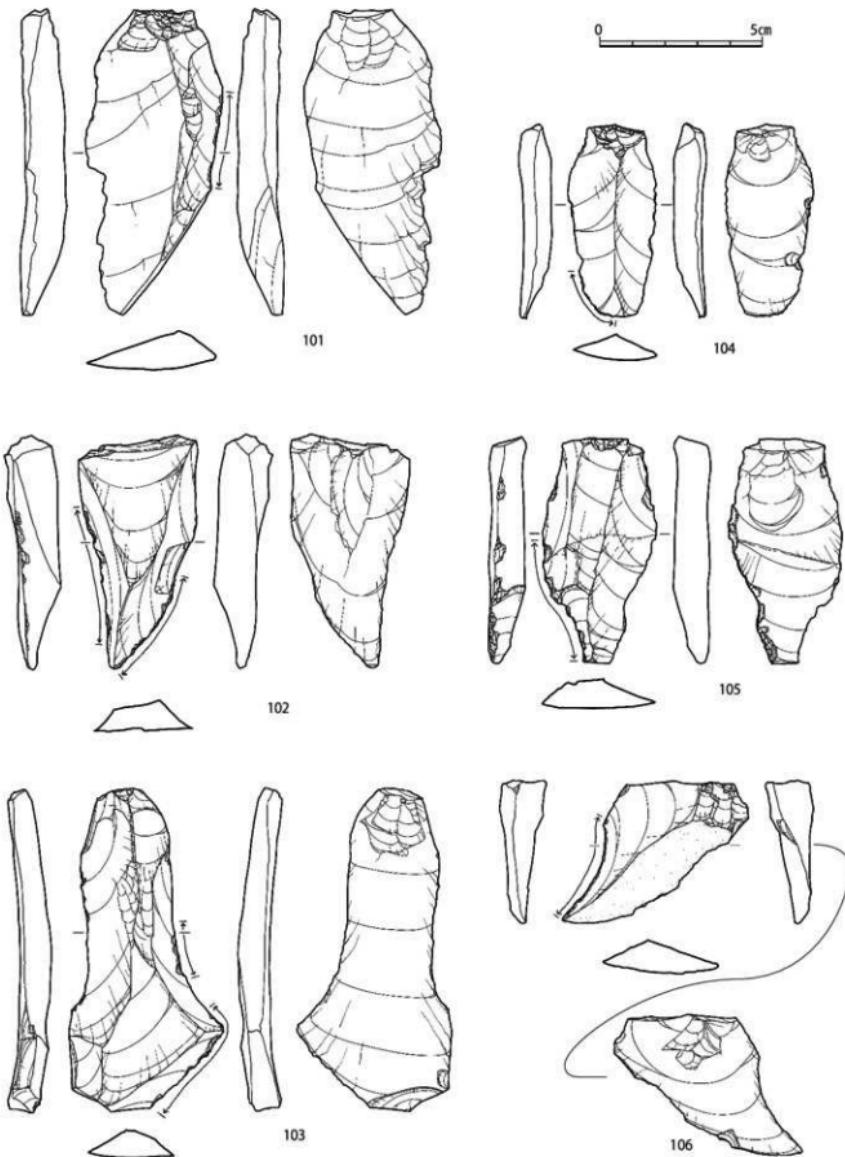


94

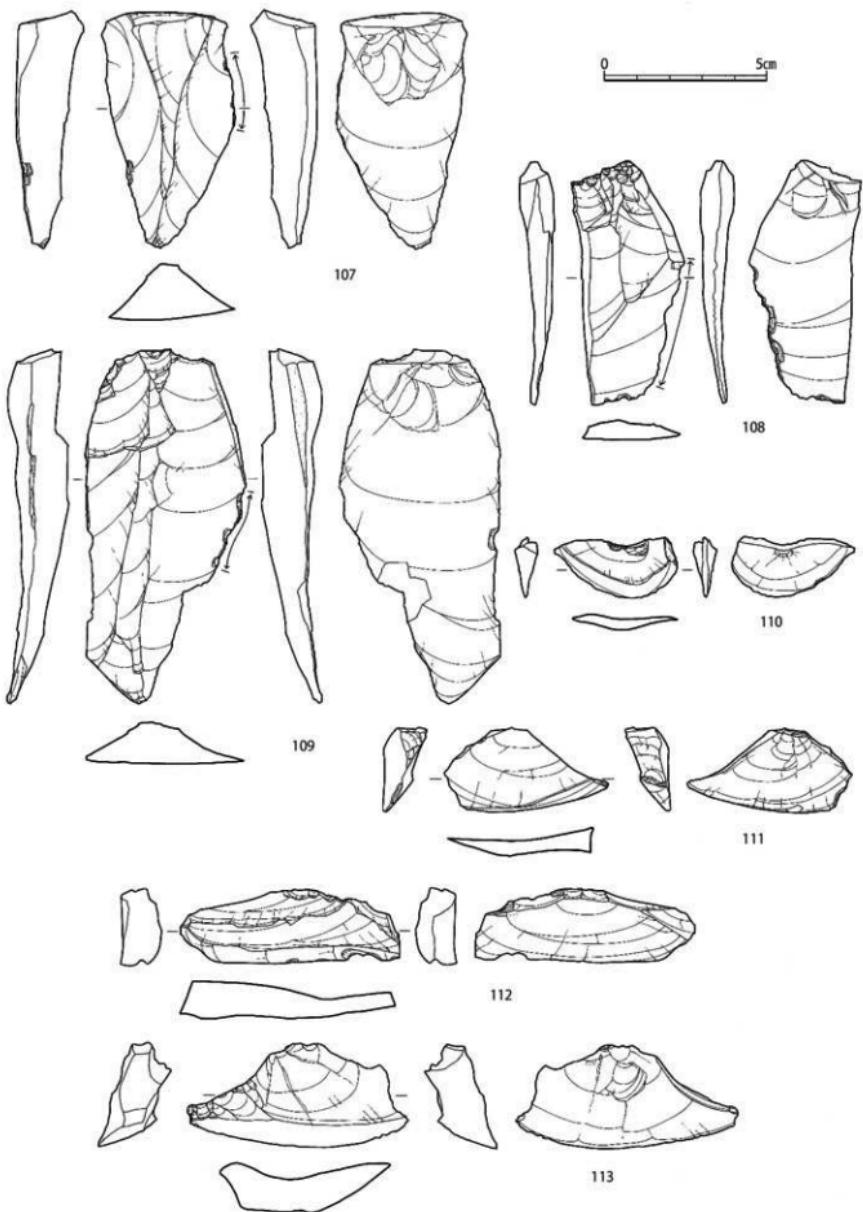
第49图 第III期石器实测图 8 (S=2/3)



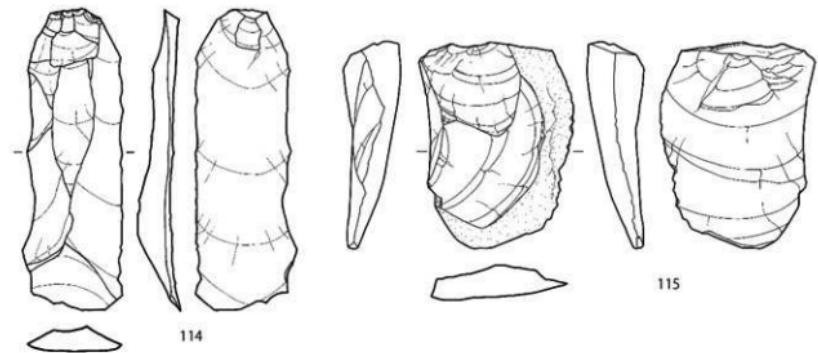
第50圖 第III期石器實測圖 9 ( $S = 2/3$ )



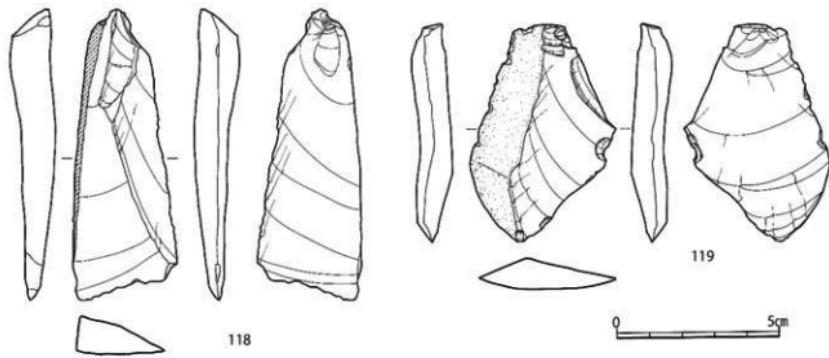
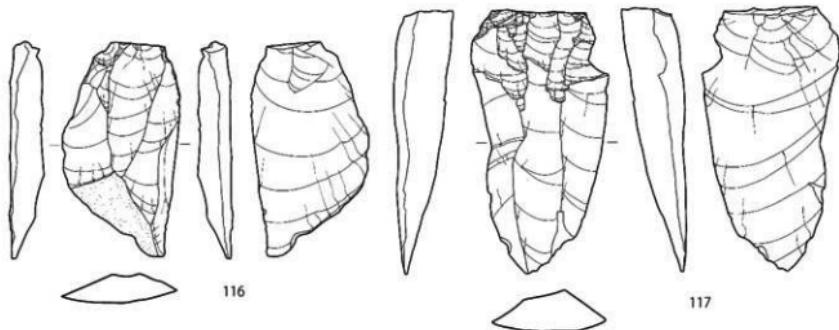
第51図 第III期石器実測図10 (S=2/3)



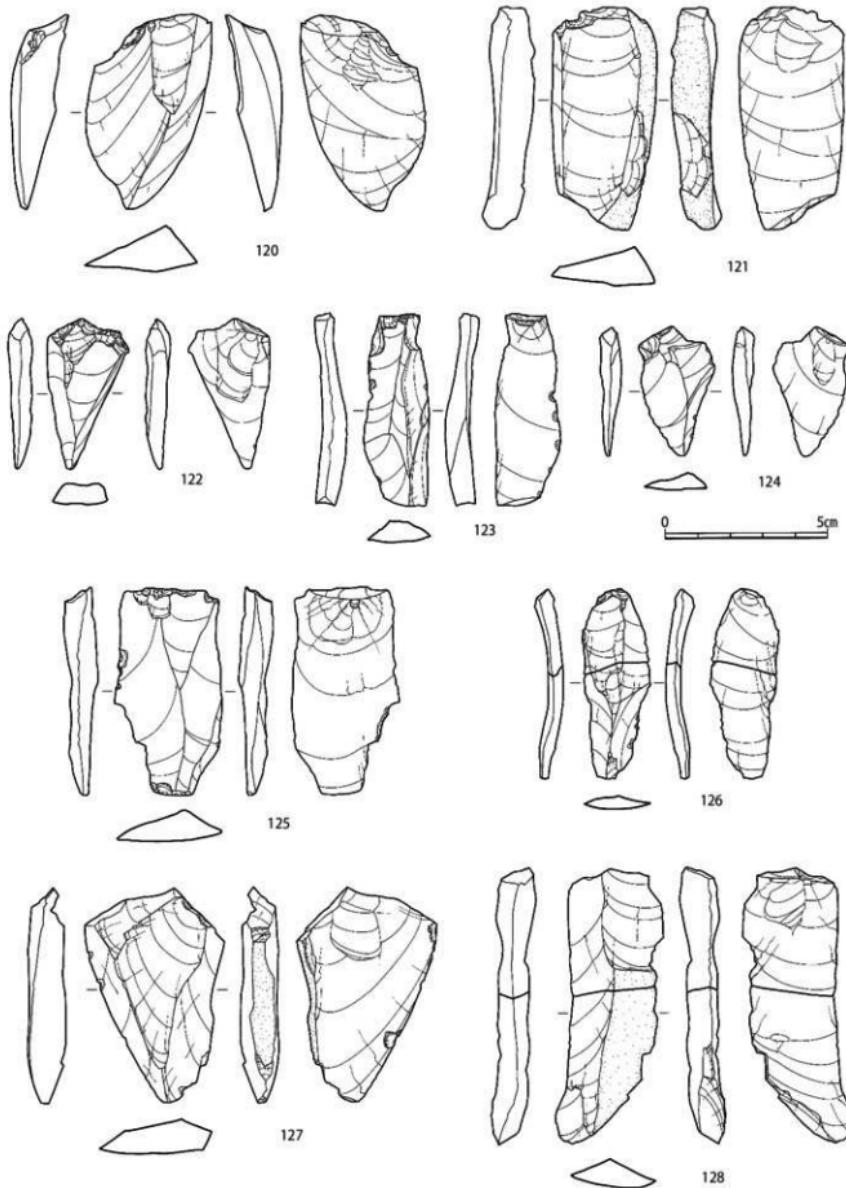
第52図 第III期石器実測図11 (S=2/3)



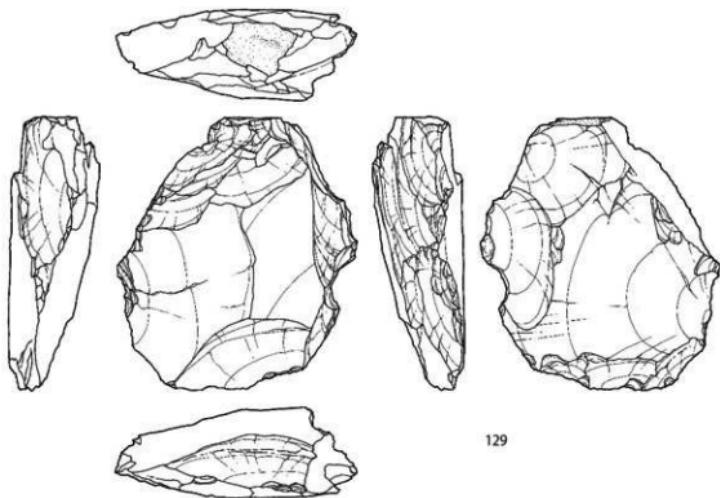
115



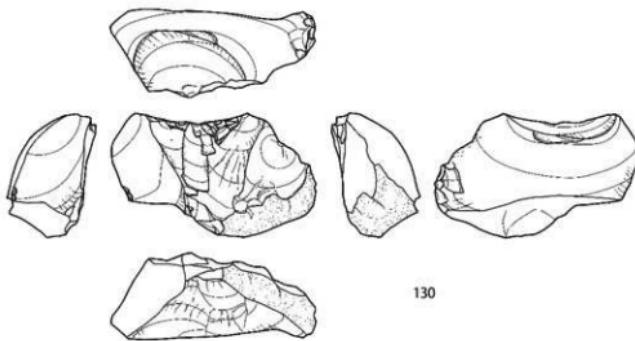
第53図 第III期石器実測図12 (S=2/3)



第54図 第III期石器実測図13 (S=2/3)

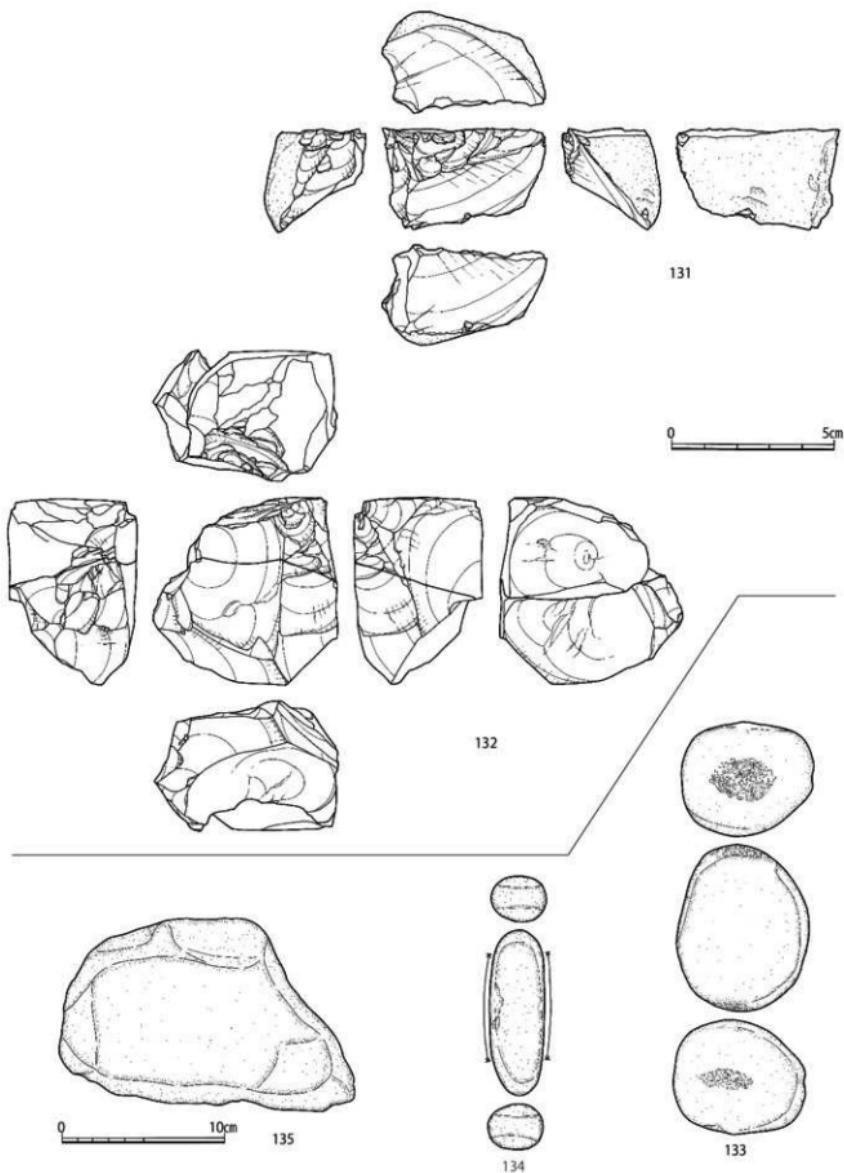


129



130

第55図 第III期石器実測図14 (S=2/3)



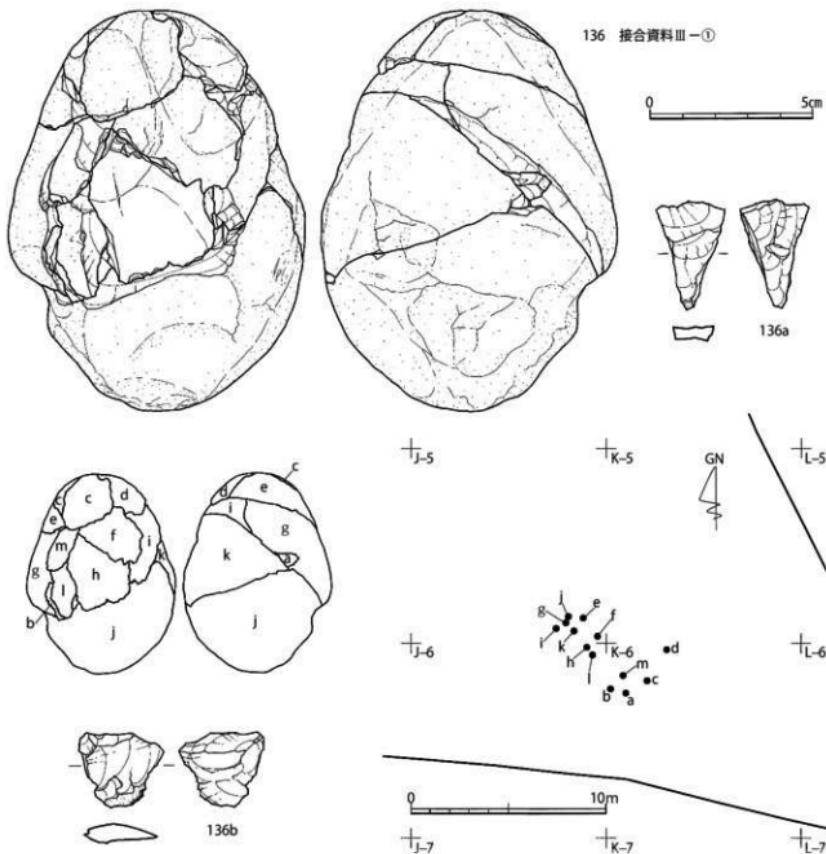
第56図 第Ⅲ期石器実測図15 ( $S = 2/3$ )、( $S = 1/3$ )

(3) 接合資料 (第57図～74図)

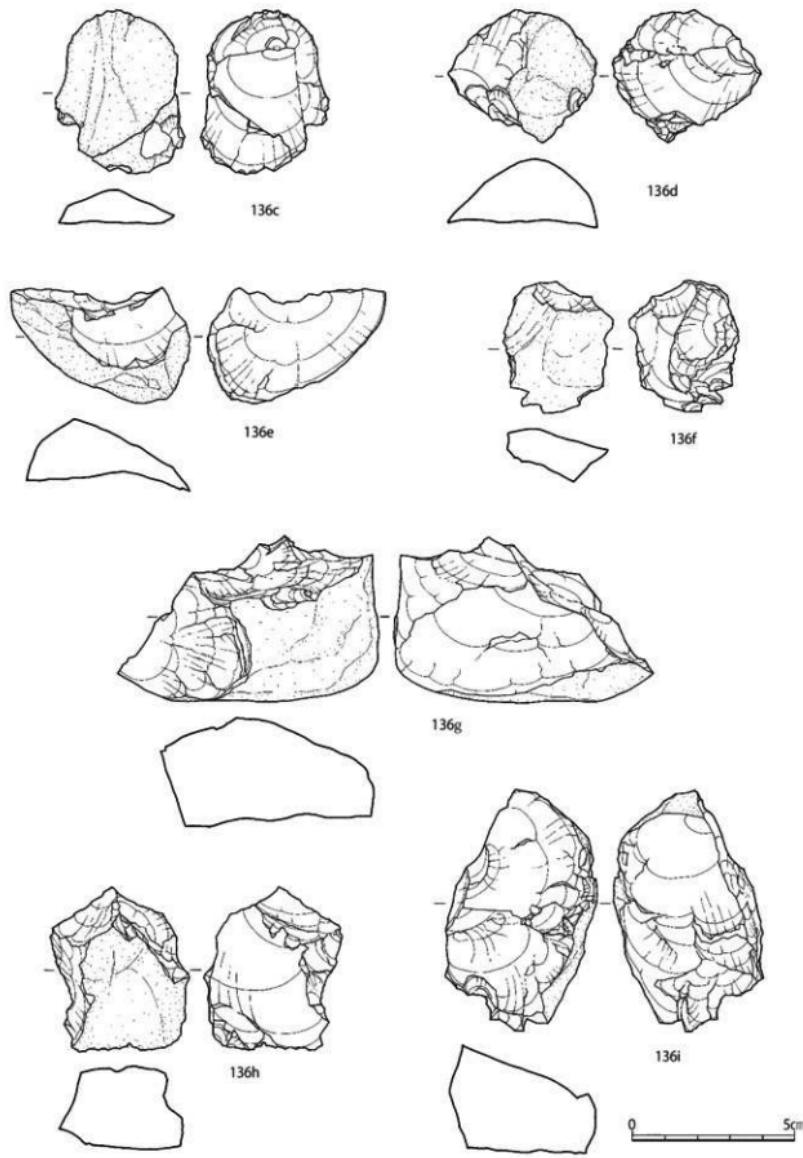
接合資料は86例確認された。そのうち11例の図化を行った。

[接合資料136] (第57・58・59図)

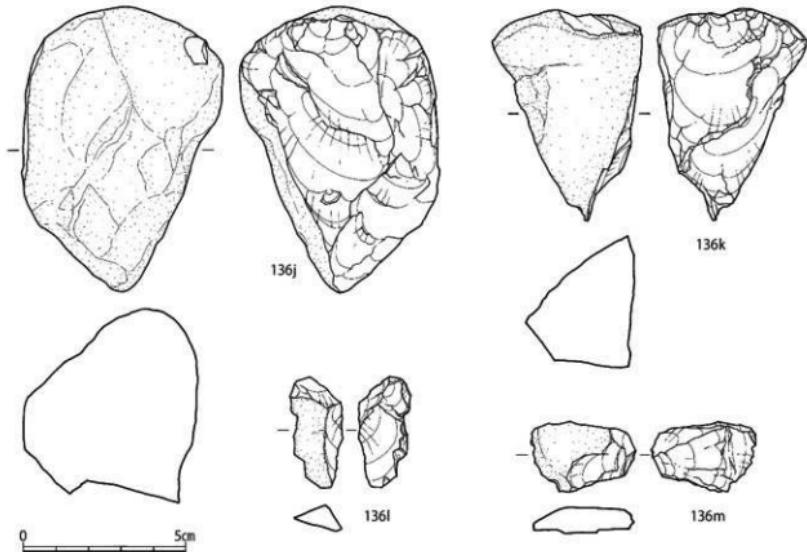
136接合資料III-①は、R I 類製で剥片13点が接合している。いずれも調査区南東部、2号礫群近くのK-6 グリッド付近に集中して出土した。素材は長径約13cm、短径約9cm程度の楕円礫である。136k、136jを大きく打ち欠き素材を二分割した後、正面左側の自然面側から打撃を加え、136c、136mという具合に、ほぼ同じ打面から剥片を作出している。剥片すべてに自然面が見られ、不定形剥片が多い。



第57図 第III期石器実測図16 ( $S=2/3$ ) 接合資料III-①分布図 ( $S=1/250$ )



第58図 第III期石器実測図17 (S=2/3)



第59図 第III期石器実測図18 (S=2/3)

#### [接合資料137] (第60・61図)

137接合資料III-②は、R I類製で剥片6点が接合している。調査区南西部、3号縄群近くのI-5、I-6グリッドから出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、径10cm以上の亜円盤だと考えられる。自然面をもつ縄の端部を打ち欠き、そこで形成された分割面を打面とし、137a、137eなどの剥片を縦方向に剥離を行っている。137bは、剥片剥離の衝撃で偶発的に割れたものである。剥片全てに自然面が見られる。137dは他の5点の出土した箇所から約5m離れて出土している。

#### [接合資料138] (第61図)

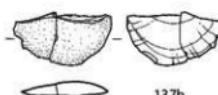
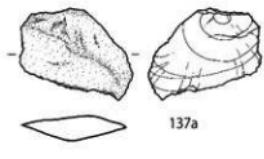
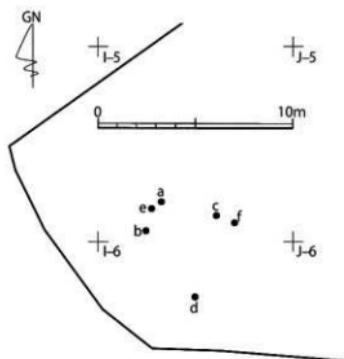
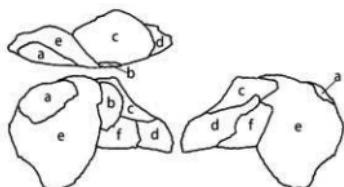
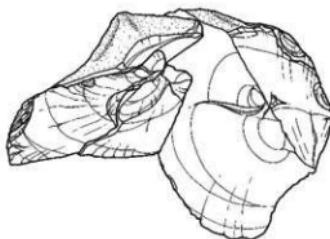
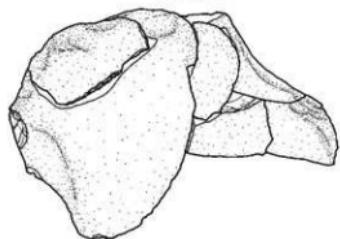
138接合資料III-③は、R I類製で剥片3点が接合している。いずれも調査区南東部I-5グリッドから出土した。同一の打面から連続して138a、138b、138cと縦長な剥片を作出している。

#### [接合資料139] (第62図)

139接合資料III-④は、R II類製で剥片3点が接合している。調査区南東部J-5、K-5グリッドから出土した。自然面をもつ縄の端部を打ち欠き、そこで形成された分割面を打面とし、縦方向に剥離を行っている。同一の打面から連続して139a、139b、139cと縦長な剥片を作出している。3点とも作業面調整が見られる。それぞれ単独に約5~10m離れて出土している。

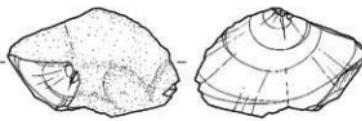


137 接合資料III-②

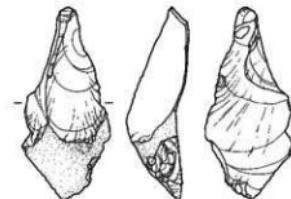


137a

137b



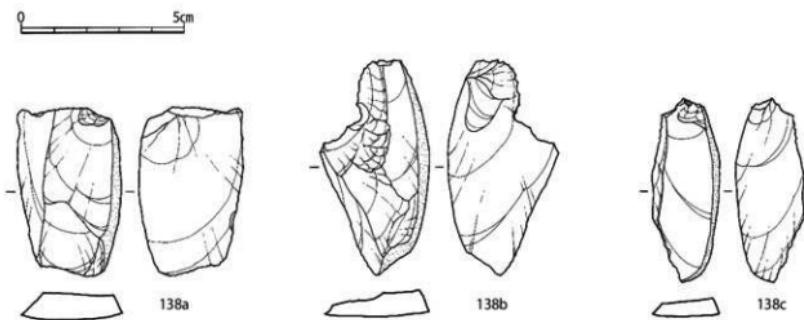
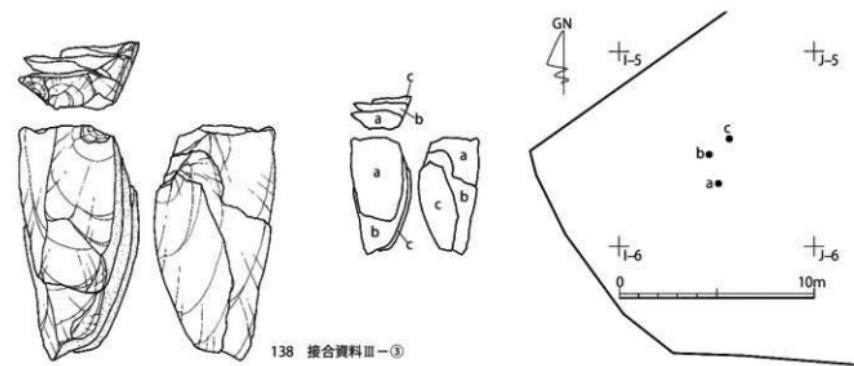
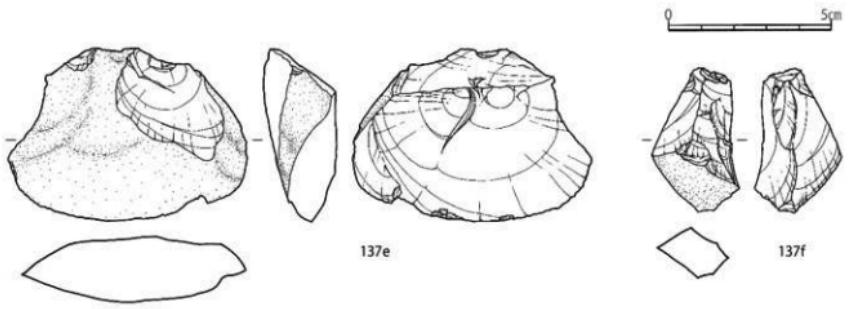
137c



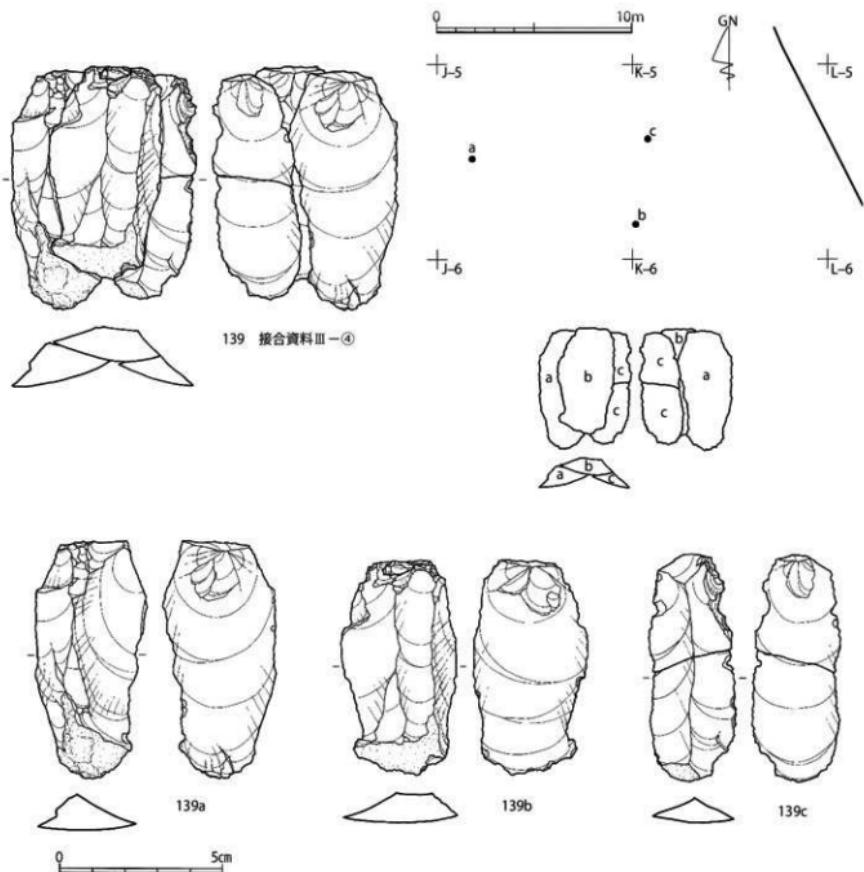
137d



第60図 第III期石器実測図19 ( $S=2/3$ ) 接合資料III-②分布図 ( $S=1/250$ )



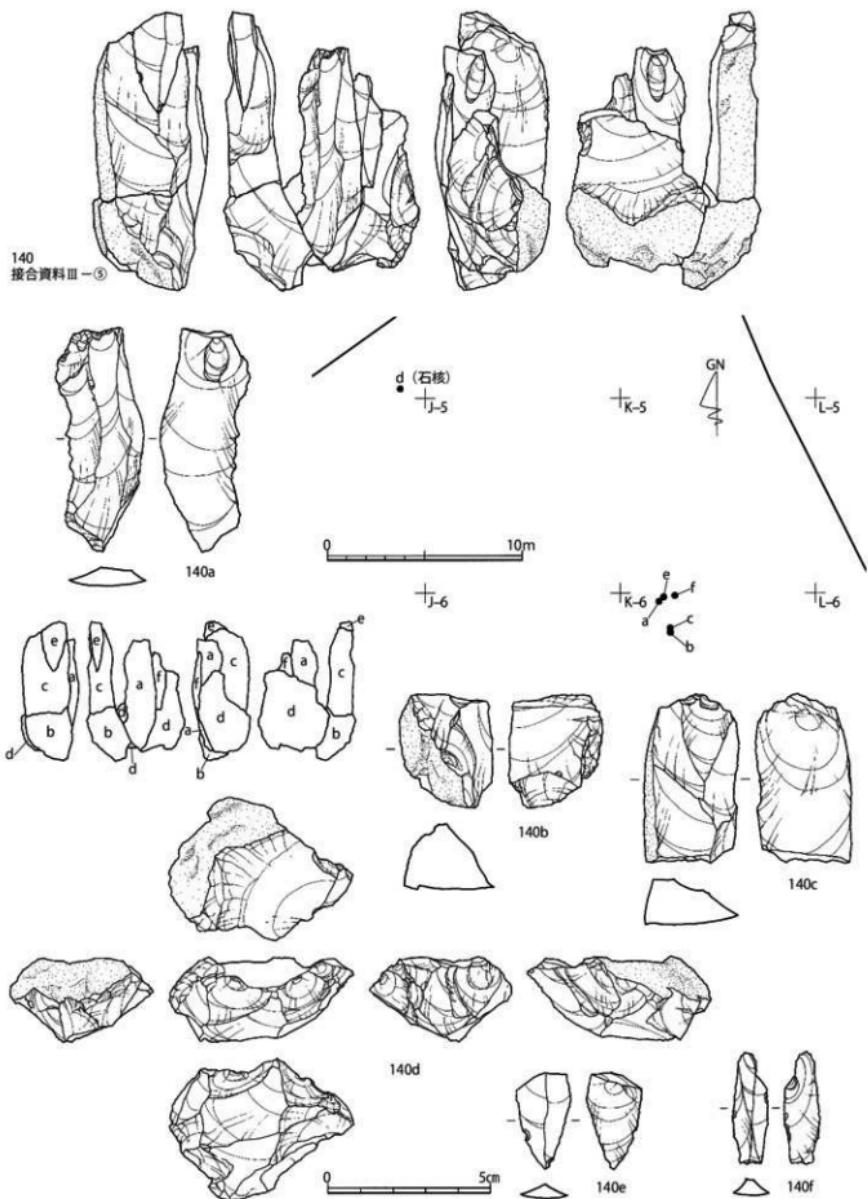
第61図 第III期石器実測図20 ( $S=2/3$ ) 接合資料III-③分布図 ( $S=1/250$ )



第62図 第III期石器実測図21 ( $S=2/3$ ) 接合資料III-④分布図 ( $S=1/250$ )

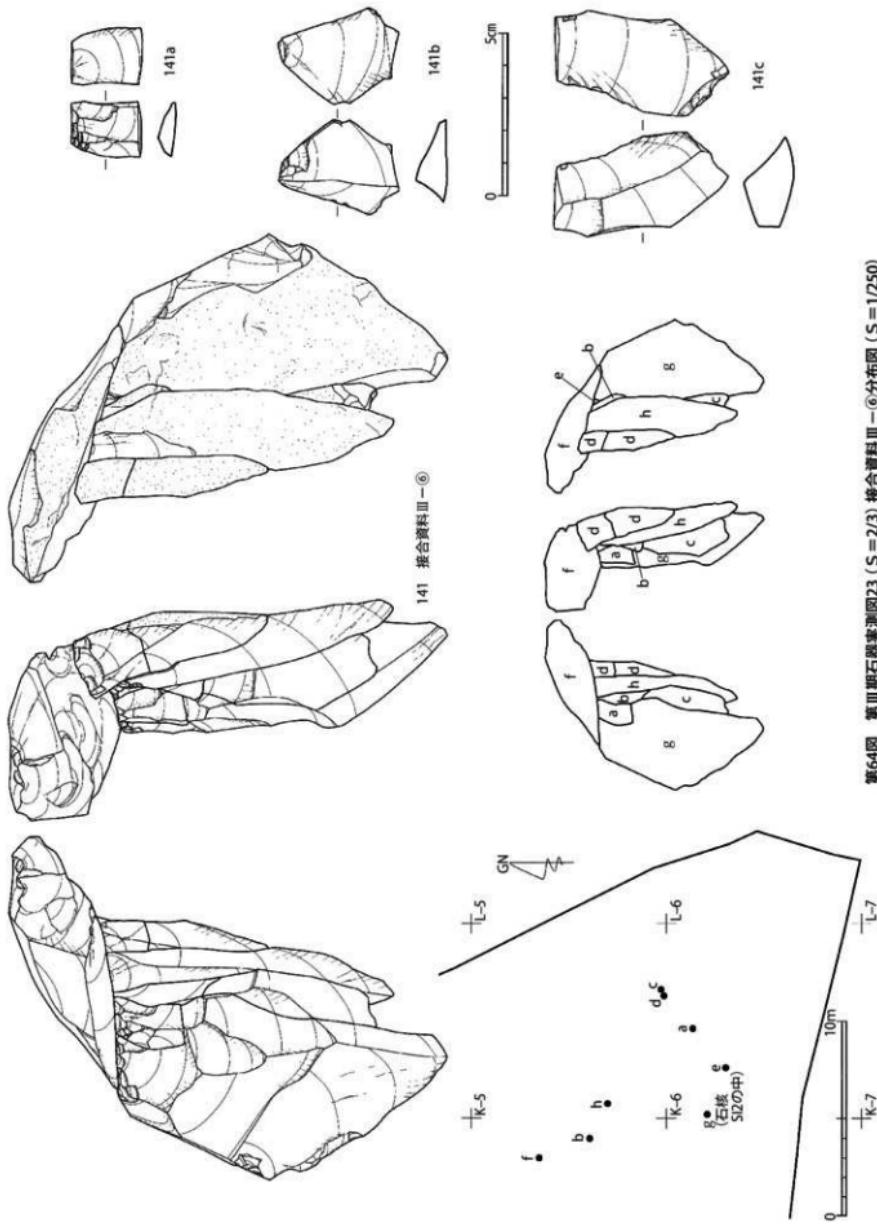
[接合資料140] (第63図)

140接合資料III-⑤は、R II類製で剥片5点、石核1点、合計6点が接合している。調査区中央部K-6グリッドから主に出土し、140dだけは、そこから約15m離れた箇所で出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、径10cm以上の垂円礫だと考えられる。自然面をもつ礫の端部を打ち欠き、そこで形成された分割面を打面とし、縦方向に剥離を行い140a、140c、140eの縦長な剥片を作出している。140a・140cには作業面調整が見られる。140dは石核である。おそらく、厚さの薄い140aのような縦長な剥片など、石器の基となる剥片を作出した後の残核である。端部に自然面が見られる。



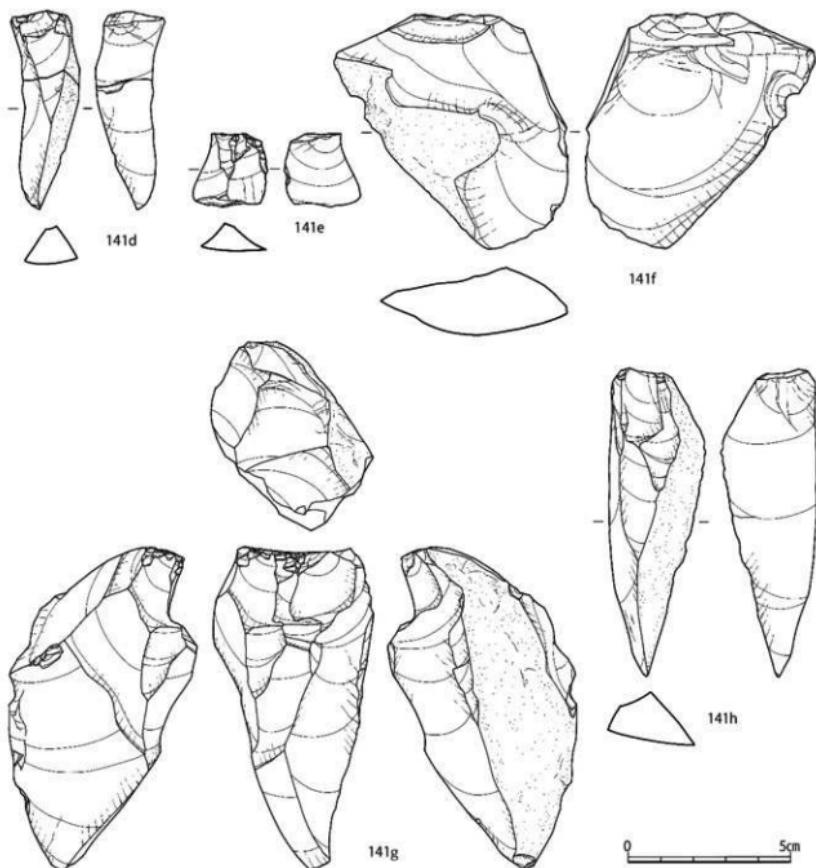
第63図 第III期石器実測図22 (S=2/3) 接合資料III-⑤分布図 (S=1/250)

第64図 第Ⅲ期石器実測図23 ( $S = 2/3$ ) 採合資料III-⑥分布図 ( $S = 1/250$ )



[接合資料141] (第64図・65図)

141接合資料III-⑥は、R II類製で剥片7点、石核1点、合計8点が接合している。調査区南東部K-5、K-6グリッド、2号縄群近くから出土した。また、141c、141dを除くそれぞれの剥片は、約2～5m離れて出土している。素材は碎片で、全体形が不明であるが、径14cm以上の亜円縄だと考えられる。自然面をもつ141fを打ち欠き打面を形成し、ほとんど頭部調整や打面再生などを実施せずに141b+141c、141d、141hといった縦長な剥片を作出している。141a、141b、141d、141e、141g、141hには作業面調整が見られる。141gは石核で、2号縄群内より出土した。正面上面や左側縁上部から141b+141cのような剥片の作出が行われている。裏面に自然面が見られる。



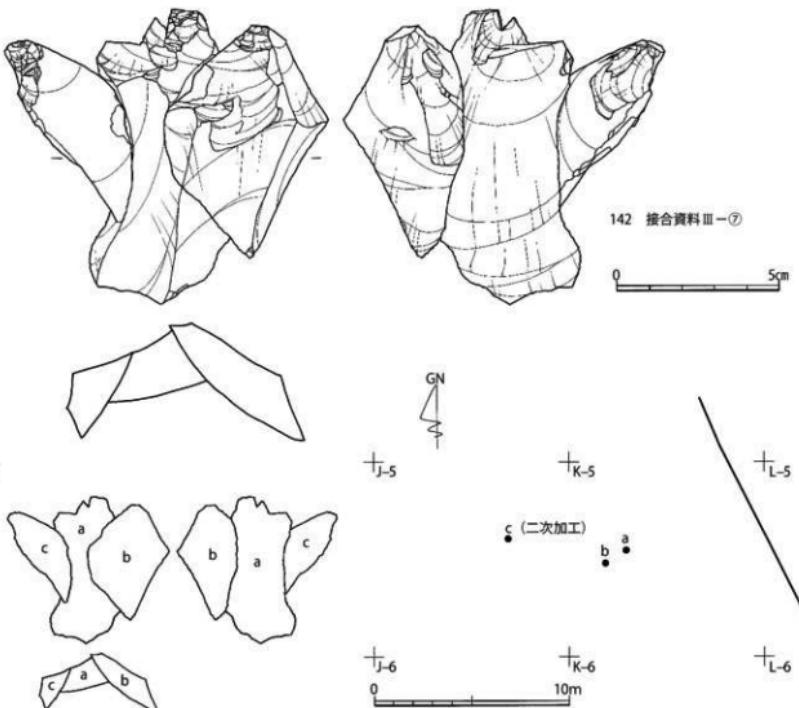
第65図 第III期石器実測図24 (S=2/3)

[接合資料142] (第66図・67図)

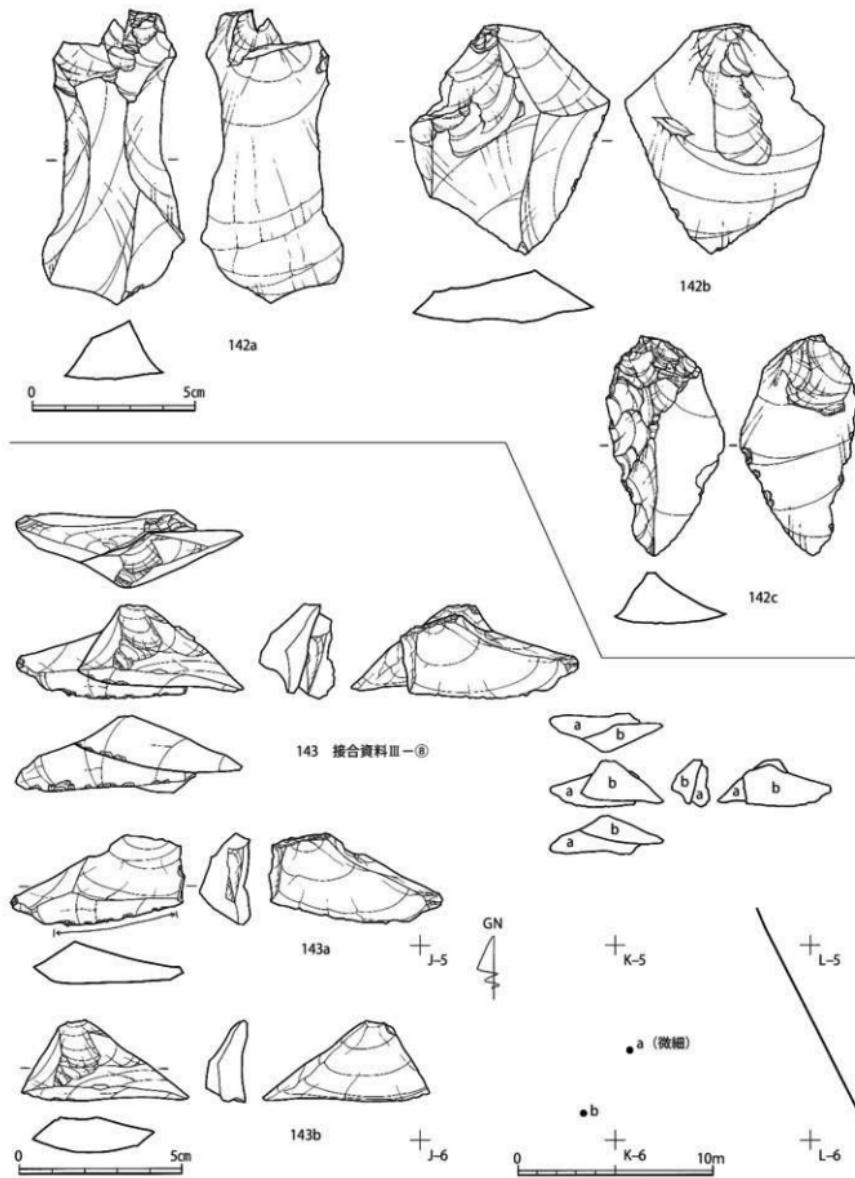
142接合資料III-⑦は、R II類製で二次加工剥片1点、剥片2点の合計3点が接合している。調査区中央部東側よりのJ-5、K-5グリッドから出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、後述する143接合資料III-⑧と144接合資料III-⑨と石材、出土状況が重複することから、同一母岩の可能性もある。自然面をもつ上部を打ち欠き、そこで形成された分割面を打面として、ほとんど頭部調整や打面再生などを実施せずに142c、142b、142aといった幅広や縦長な剥片を作出している。3点すべてに作業面調整が見られる。142cは左側縁に連続するやや粗い加工が施されている二次加工剥片である。二側縁加工のナイフ形石器(第43図-52)に形態が非常によく似ている。142a、142bの出土した箇所より約5m離れて出土した。

[接合資料143] (第67図)

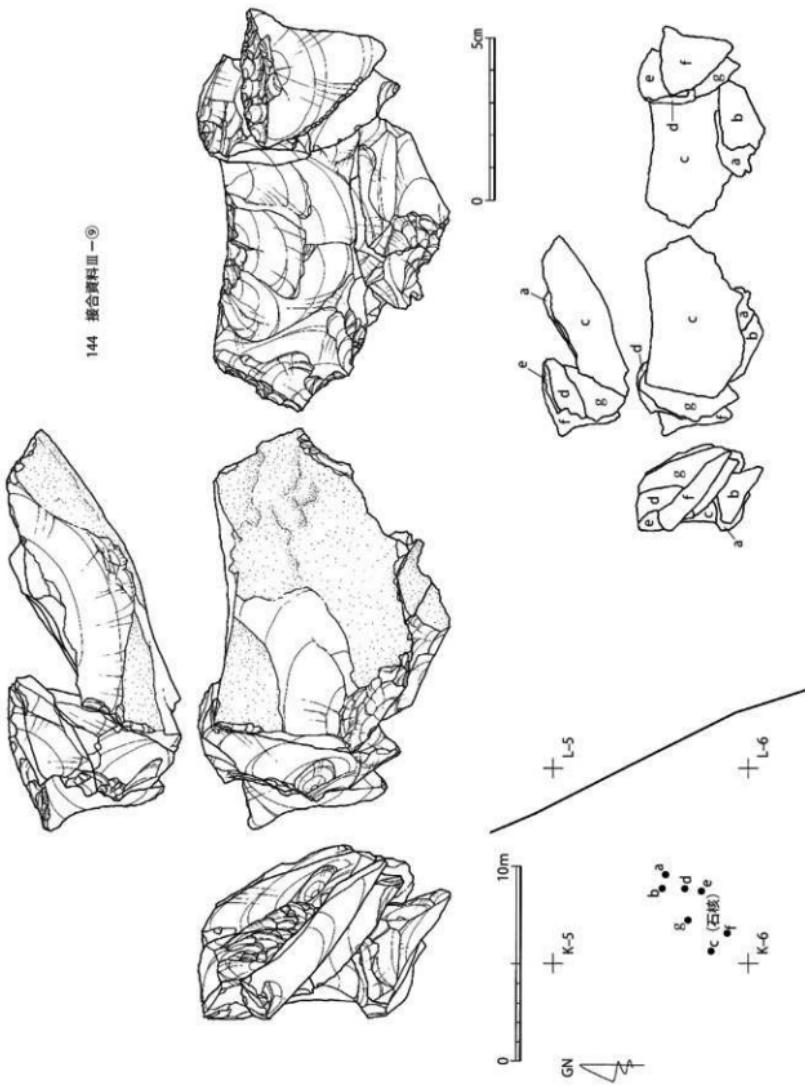
143接合資料III-⑧は、R II類製で微細剥離ある剥片1点、剥片1点の合計2点が接合している。調査区中央部東側よりのJ-5、K-5グリッドから出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、前述した142接合資料III-⑦と後述する144接合資料III-⑨と石材、出土状況が重複することから、同一母岩の可能性もある。143aの幅広な剥片には作業面調整が見られ、下端部に微細な剥離が見られる。



第66図 第Ⅲ期石器実測図25 (S=2/3) 接合資料III-⑦分布図 (S=1/250)



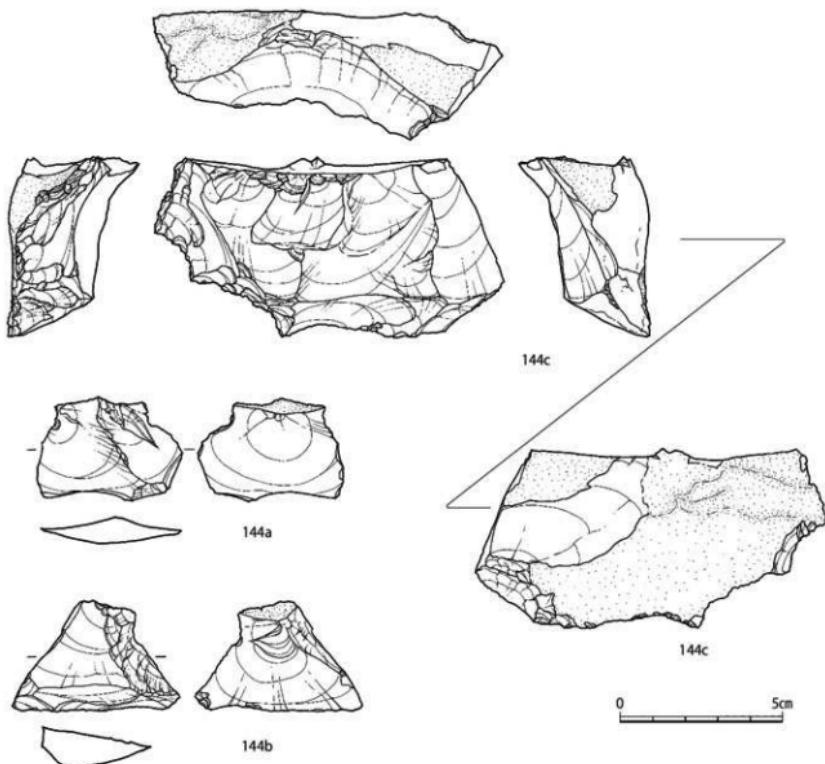
第67図 第III期石器実測図26 (S=2/3) 接合資料III-⑧分布図 (S=1/250)



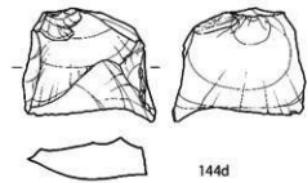
第68図 第Ⅲ期石器実測図27 ( $S = 2/3$ ) 接合資料III-⑨分布図 ( $S = 1/250$ )

[接合資料144] (第68図・69図・70図)

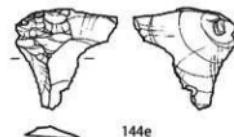
144接合資料III-⑨は、R II類製で剥片6点、石核1点の合計7点が接合している。調査区中央部東側よりのK-5グリッドから出土した。素材は部分的で、全体形が把握できないが、径10cm以上の亜角礫だと考えられる。前述した142接合資料III-⑦と143接合資料III-⑧と石材、出土状況が重複することから、同一母岩の可能性もある。素材の自然面をもつ上部を打ち欠き、そこで形成された分割面を打面として144d、144e、144f、144gといった剥片を作出している。その後直交するような形で打面を正面左側にし、144a・144bの剥片を作出している。残った144cは石核である。おそらく剥片を作出した後の残核で、自然面が見られる。前述した143接合資料III-⑧と144a・144bの剥片の形態や剥離の仕方は非常に酷似している。144b、144c、144eには作業面調整が見られる。144fの打面側には、正面からの細かな調整が見られる。何らかの石器を製作しようとした際に打面除去を行ったとも考えられる。



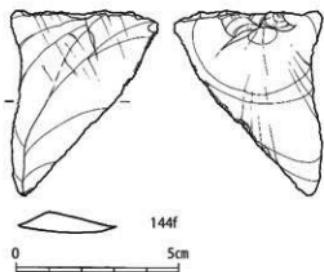
第69図 第III期石器実測図28 (S=2/3)



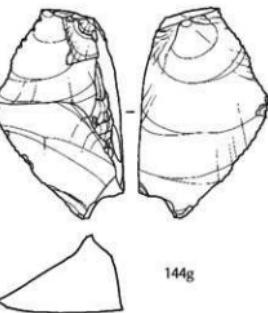
144d



144e



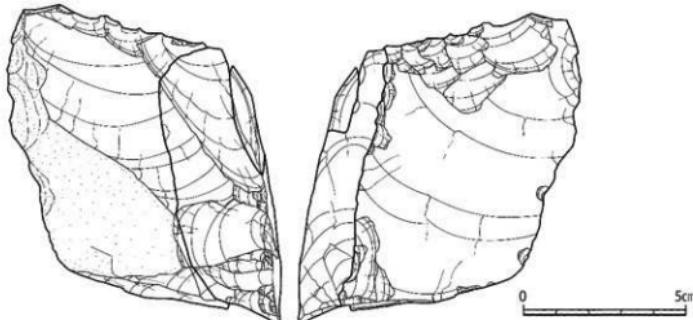
144f



144g

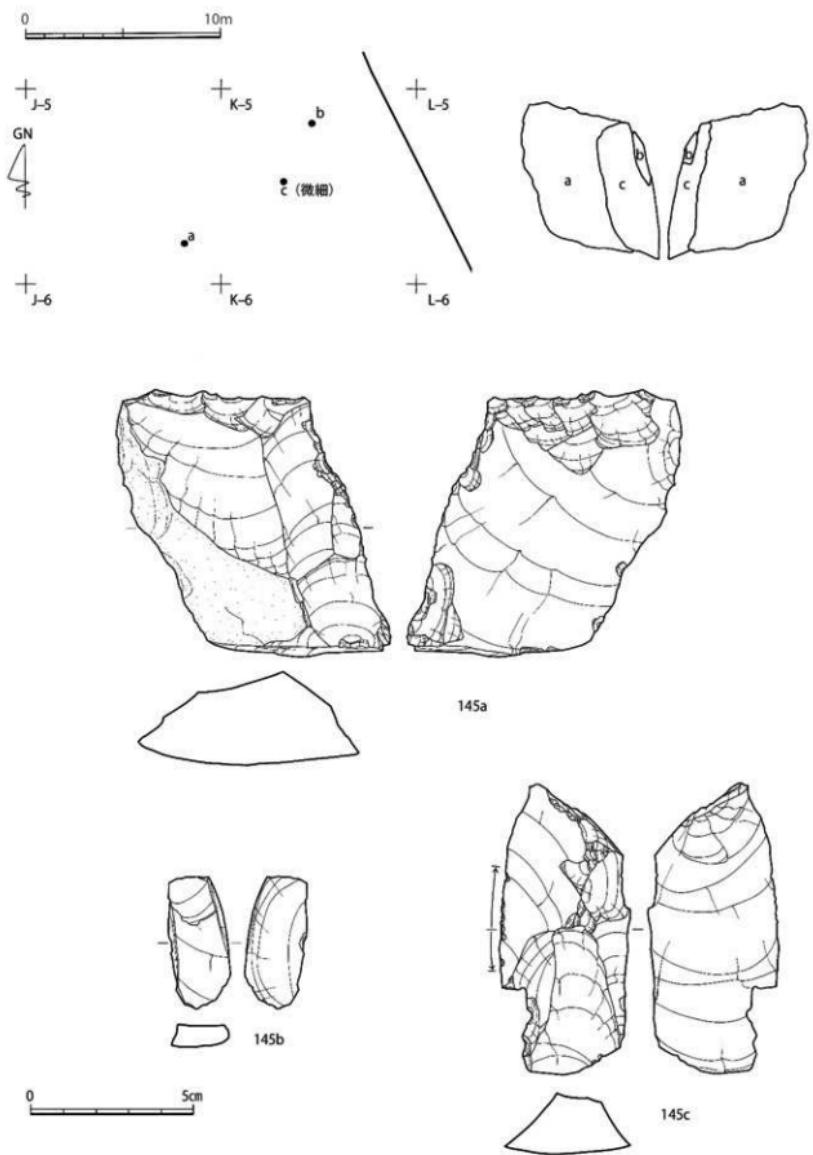
[接合資料145] (第70図・71図)

145接合資料III-⑩は、R II 類製で微細剥離ある剥片 1点と剥片 2点の合計 3点が接合している。調査区中央部東側よりの J-5、K-5 グリッドから出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、径 10cm 以上の亜角礫であったと考えられる。正面上面を打面として剥片を作出し、その後、打面を上下に入れ替え、145c は剥離している。145c は左側縁に微細な剥離が見られる。145b は調整剥片である。3 点ともそれぞれ 3~6 m ほど離れた箇所で出土している。



145 接合資料III-⑩

第70図 第III期石器実測図29 (S=2/3)



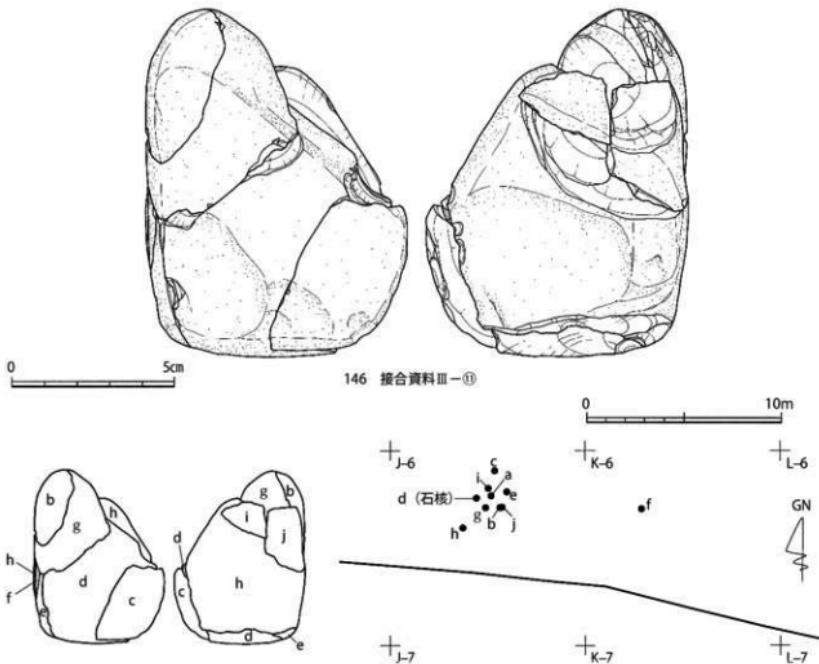
第71図 第III期石器実測図30 ( $S=2/3$ ) 接合資料III-⑩分布図 ( $S=1/250$ )

[接合資料146] (第72図・73図・74図)

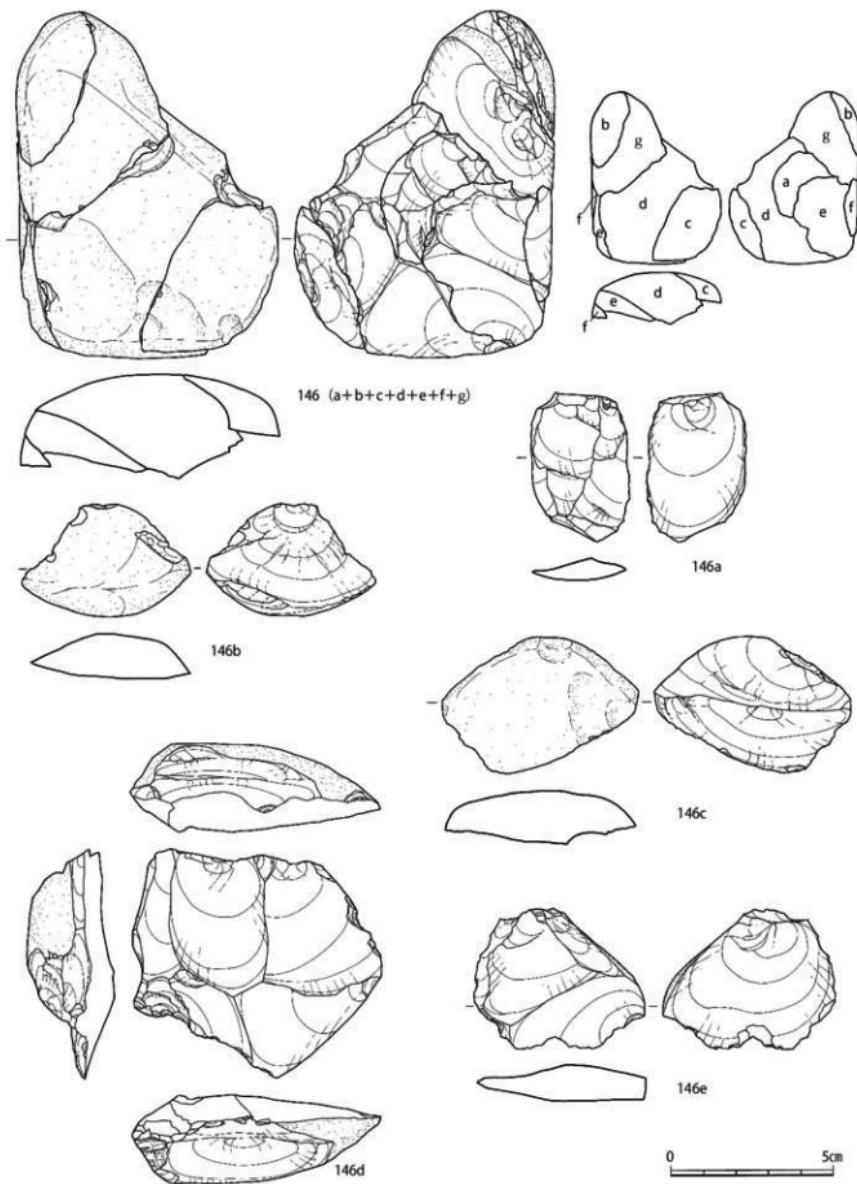
146接合資料III-⑪は、R II類製で剥片8点と石核2点の合計10点が接合している。調査区南東部東J-6、K-6グリッドから出土した。素材は長径約11cm、短径約9cm程度の楕円礫である。素材を正面下方より二分割する際146cが剥落している。その後自然面をもつ146b・146gを大きく打ち欠き打面を形成し、裏面〔実測図第73図146 (a+b+c+d+e+g)〕右上より、ほとんど打面再生などを実施せずには146f、146e、146aといった剥片を作出している。146fは調整剥片である。146e、146aには作業面調整が見られる。146dは石核で、剥片作出後の残核である。自然面が見られる。

素材を二分割したもう一方も、自然面をもつ146i、146jを打ち欠き打面を形成し、裏面〔実測図第74図146 (h+i+j)〕左上より剥片を作出している。146hは石核で、剥片作出後の残核である。自然面が見られる。

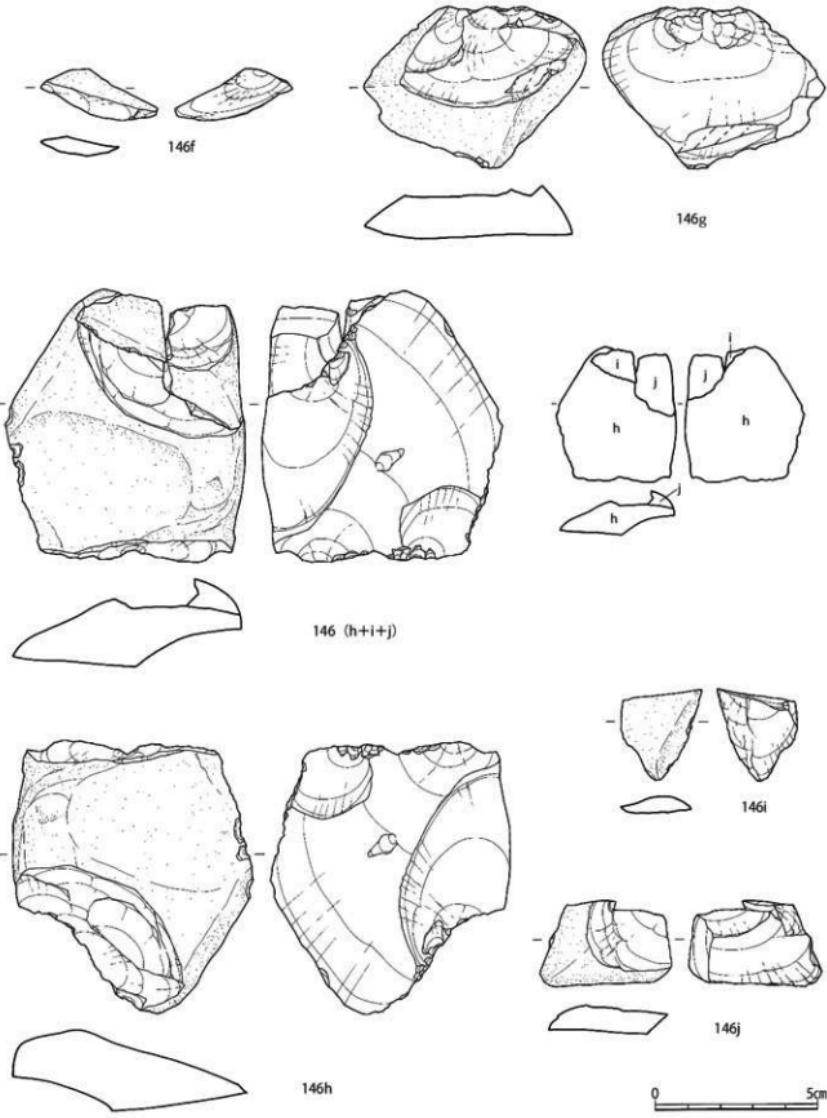
この接合資料では、縦長な剥片は見られず、不定形な剥片で素材外周の自然面の残るものが多い。また、接合資料の自然面部はほとんど残存しており接合するが、素材内部には空間がある。素材内部の剥片を石器製作に用いて持ち出した可能性も考えられる。146fは、他の9点の出土した箇所より約6m離れて出土している。



第72図 第Ⅲ期石器実測図31 (S=2/3) 接合資料III-⑪分布図 (S=1/250)



第73図 第III期石器実測図32 (S=2/3)



第74図 第III期石器実測図33 (S=2/3)

## 第4節 第IV期（VI層）の調査（第75図～85図）

第IV期は、VI層上部～中部に遺構・遺物が分布している。遺構は、土坑5基（第76図）、礫群5基（第77図・78図）を検出した。遺物（第75図）は調査区全体に万遍なく分布している。

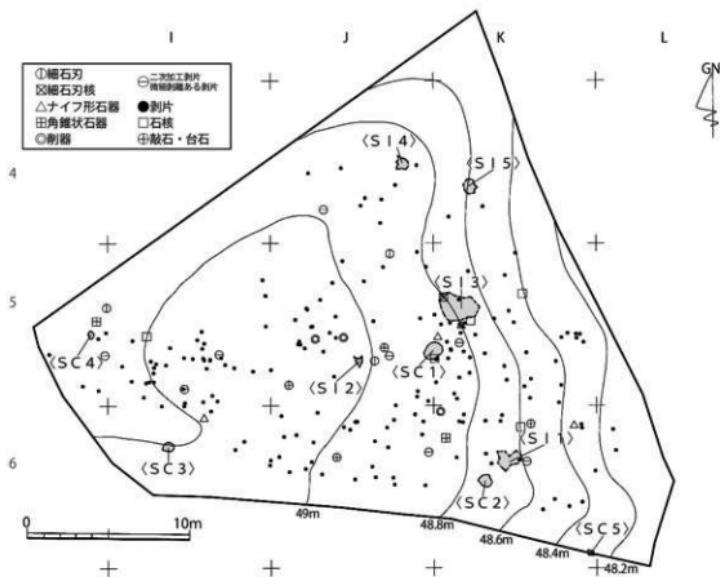
### （1）土坑（第76図）

5基の土坑は、いずれも焼土を伴う土坑である。検出面は第VI層上部である。1号・2号土坑は、黒色の不定形なにじみの周りを焼土が取り囲む方形や楕円形であった。いずれの土坑からも遺物は出土していない。埋土は、焼土粒を含む橙色土が主である。しかし、遺物（第75図）との出土高差もさほど違いないことから、第IV期に帰属するものと考えられる。5基の土坑のうち1号・2号・5号土坑の3基を図化した。3号・4号土坑は、5号土坑と形状、大きさ、埋土の状況がほぼ同じであった。

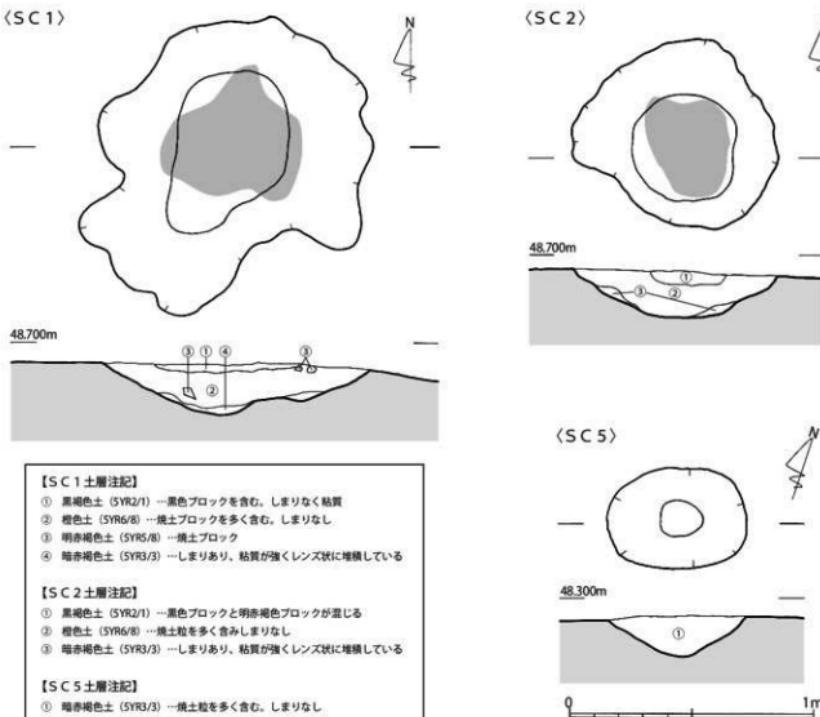
1号土坑（S C 1）は調査区中央部J-5、K-5グリッド間付近で検出した。長径121cm、短径110cm、深さ21cmで、方形に近い不定形である。埋土の上部から中部にかけて焼土ブロックを検出した。遺物は出土していない。

2号土坑（S C 2）は調査区南東部K-6グリッドで検出した。長径84cm、短径78cm、深さ19cmで、楕円形である。遺物は出土していない。

5号土坑（S C 5）は調査区南東部K-6グリッド、調査区境界で検出した。長径57cm、短径41cm、深さ17cmで、楕円形である。埋土中に焼土粒を多量に含んでいた。遺物は出土していない。



第75図 第IV期検出状況図 ( $S=1/300$ )



第76図 第IV期土坑実測図 (S=1/20)

遺構番号	グリッド	検出面	出土遺物	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
SC 1	J-5、K-5	6層上部	—	121	110	21	不定形	焼土ブロックを含む
SC 2	K-6	6層上部	—	94	78	19	楕円形	焼土粒を含む
SC 3	I-6	6層上部	—	62	57	18	楕円形	焼土粒を多量に含む
SC 4	H-5	6層上部	—	60	51	17	楕円形	焼土粒を多量に含む
SC 5	K-6	6層上部	—	57	41	17	楕円形	焼土粒を多量に含む

第6表 第IV期土坑計測表

## (2) 碓群 (第77・78図)

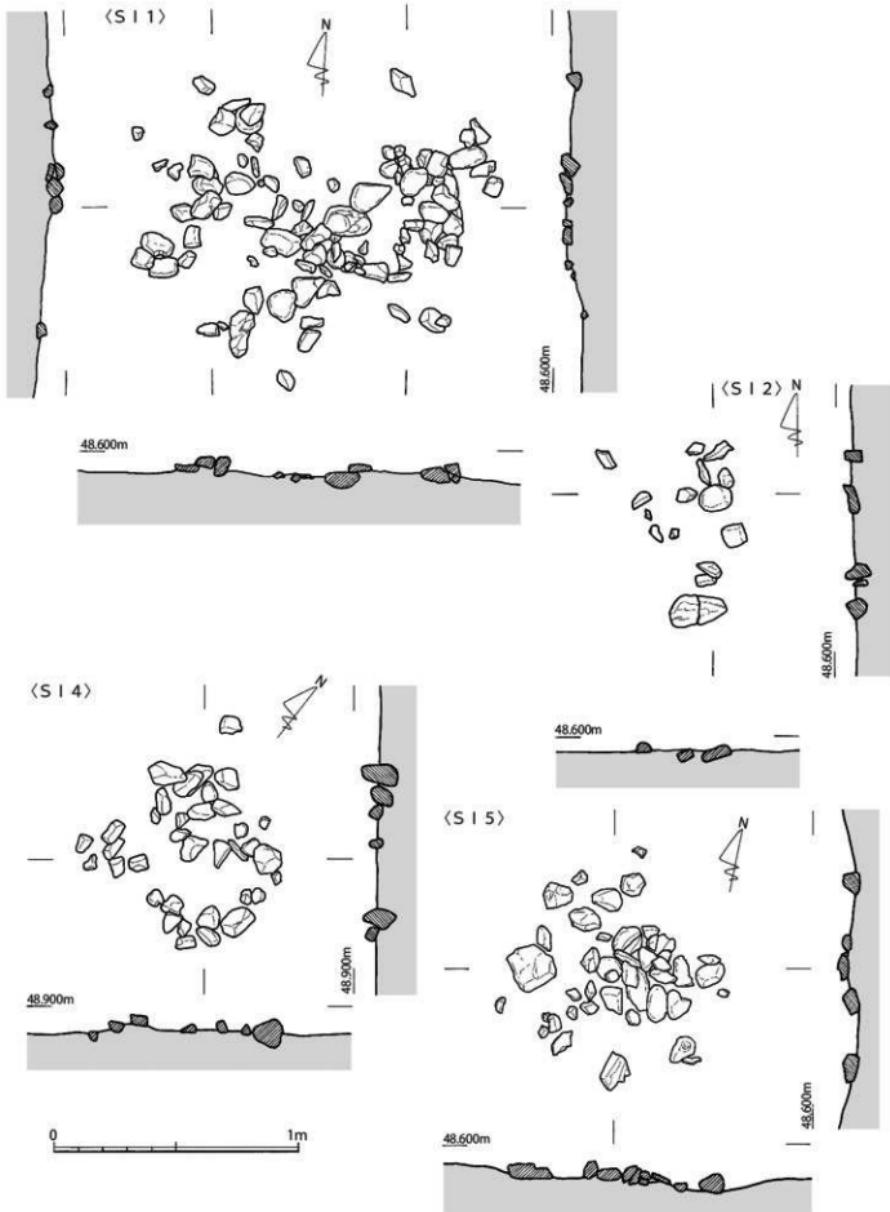
第IV期から確認できた碓群は5基で、検出面は第VI層中部である。いずれの碓群にも、炭化物や掘込は確認されなかった。

1号碓群 (SC 1) は、K-6グリッドで検出した。碓が103個使用されており総重量は55.35kgである。砂岩が85個、チャートが2個で、流紋岩が15個、凝灰岩が1個で、いずれも赤化しており、円礫や巨礫が主体であった。板状の円礫を二分割し、割れ面を下にしているものが複数確認された。

第77圖 第IV期遺群測量圖1 (S = 1/20)



(S | 3)



第78図 第IV期砾群実測図2 (S = 1/20)

2号礫群(S I 2)は、J-5グリッドで検出した。礫が15個使用されており総重量は8.15kgである。砂岩が7個、チャートが1個、花崗斑岩が2個、ホルンフェルスが1個、流紋岩が3個、凝灰岩が1個で、いずれも赤化しており円礫が主体であった。

3号礫群(S I 3)は、K-5グリッドで検出した。礫が357個使用されており総重量は95.70kgである。砂岩が53個、チャートが68個、花崗斑岩が41個、流紋岩が78個、凝灰岩が62個、礫岩が55個で、いずれも赤化している円礫が主体であった。巨礫が二段に積み重なる部分もあるが、主として一段の礫である。細石刃核(147)が出土した。

4号礫群(S I 4)は、J-4グリッドで検出した。礫が39個使用されており、総重量は15.50kgである。砂岩が26個、チャートが5個、ホルンフェルスが1個、流紋岩が1個、凝灰岩が4個、礫岩が2個で、いずれも赤化している円礫が主体で、配石のような作りをしていた。1.5kgはある巨礫はすべて円礫で、垂直に埋め込むように立っていた。

5号礫群(S I 5)は、K-4グリッドで検出した。礫が52個使用されており、総重量は17.85kgである。砂岩が29個、チャートが6個、花崗斑岩が9個、凝灰岩が8個で、いずれも赤化している円礫が主体で、周辺部分はわずかにへこんでいるが、中央は盛り上がりドーナツ状にも見える。

遺構番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	掘込	石 材	礫数(個)	重量(kg)	礫の密度	炭化物	備 考
S I 1	K-6	6層中部	153	128	無	砂岩82% /チャート2% /流紋岩15% /凝灰岩1%	103	55.35	やや密	無	全て赤化礫。円礫や巨礫が主体。板状の円礫を2分割し、割れ面を下にしているものを複数確認。
S I 2	J-5	6層中部	77	48	無	砂岩46% /チャート7% /花崗斑岩13% /ホルン7% /流紋岩20% /凝灰岩7%	15	8.15	疎	無	全て赤化礫。円礫が主体。
S I 3	K-5	6層中部	288	184	無	砂岩15% /チャート19% /花崗斑岩12% /流紋岩22% /凝灰岩17% /礫岩15%	357	95.70	密	無	全て赤化礫。円礫が主体。巨礫が2段に積み重なる部分もあるが、主として一段の礫。細石刃核が出土。
S I 4	J-4	6層中部	96	86	無	砂岩66% /チャート13% /ホルン3% /流紋岩3% /凝灰岩10% /礫岩5%	39	15.50	疎	無	全て赤化礫。円礫が主体。配石のような作り。1.5kgはある巨礫はすべて円礫で垂直に埋め込んでいた状態。
S I 5	K-4	6層中部	100	96	無	砂岩57% /チャート11% /花崗斑岩17% /凝灰岩15%	52	17.85	やや密	無	全て赤化礫。円礫主体。周辺部分にはわずかなへこみがあり。中央は盛り上がりドーナツ状。

第7表 第IV期礫群計測表

### (3) 出土石器(第79～82図-147～170)

第IV期の石器は、調査区全体に万遍なく分布しており合計179点を確認した。その内訳は、細石刃3点、細石刃核1点、ナイフ形石器4点、角錐状石器2点、削器3点、二次加工剥片5点、微細剝離ある剥片3点、剥片・碎片148点、石核6点、磨石・敲石3点、台石1点である。石材は流紋岩(特にR I類)を中心としている。

147は細石刃核である。剥片側方からの打面形成後、これとほぼ直交する縦方向からの作業面調整を、剥片端側に施している。また、下側線にも調整が施されている。R I類製である。

148～150は細石刃である。148は左側縁への細部調整が施されている。150は上部に調整が施されている。R I類製である。

151～154はナイフ形石器である。151は縦長な剥片を素材とした二側縁加工でR I類製である。表

面に自然面が見られる。152は縦長な剥片を素材とし、基部と右側縁、先端部の一部に加工が施されている。R I 類製である。153は先端部を欠損しているが、縦長な剥片を素材とし、左側縁に裏面からの加工を施した一側縁加工である。右側縁に微細な剥離が見られる。R II 類製である。154は縦長な剥片を素材とし、基部と左側縁、先端の一部にわずかな加工が施されている。R II 類製である。

155・156は角錐状石器である。155は縦長な剥片を素材とし、稜からの加工も施されている。R II 類製である。156は表面左右両側縁及び棱上から粗い加工を施した後、細かな調整を加えており、両面とも加工が施されている。h o 製である。

157・158は削器である。縦長な剥片を素材とし、両側縁に裏面側からの加工が施されている。R I 類製である。

159～161は二次加工剥片である。159は厚みのある縦長な剥片を素材とし、左側縁に裏面側からの加工が施されている。R I 類製である。160は縦長な剥片を素材とし、右側縁下部に加工が施されている。正面に自然面が見られる。R I 類製である。161は両側縁から細かい加工が施されている。角錐状石器の折損品の可能性もある。熊本県小国産の特徴の見られる黒曜石製である。

162～164は微細剥離ある剥片である。162・163は一側縁に、164は二側縁に微細な剥離が見られる。162はR I 類製、163・164はR II 類製である。

165・166は剥片である。どちらとも縦長な剥片で、166には作業面調整が見られる。165はh o 製、166はR II 類製である。

167は石核である。拳大の礫を分割した後、打面を転移させ剥離を行っている。裏面に自然面が見られる。R IV 類製である。

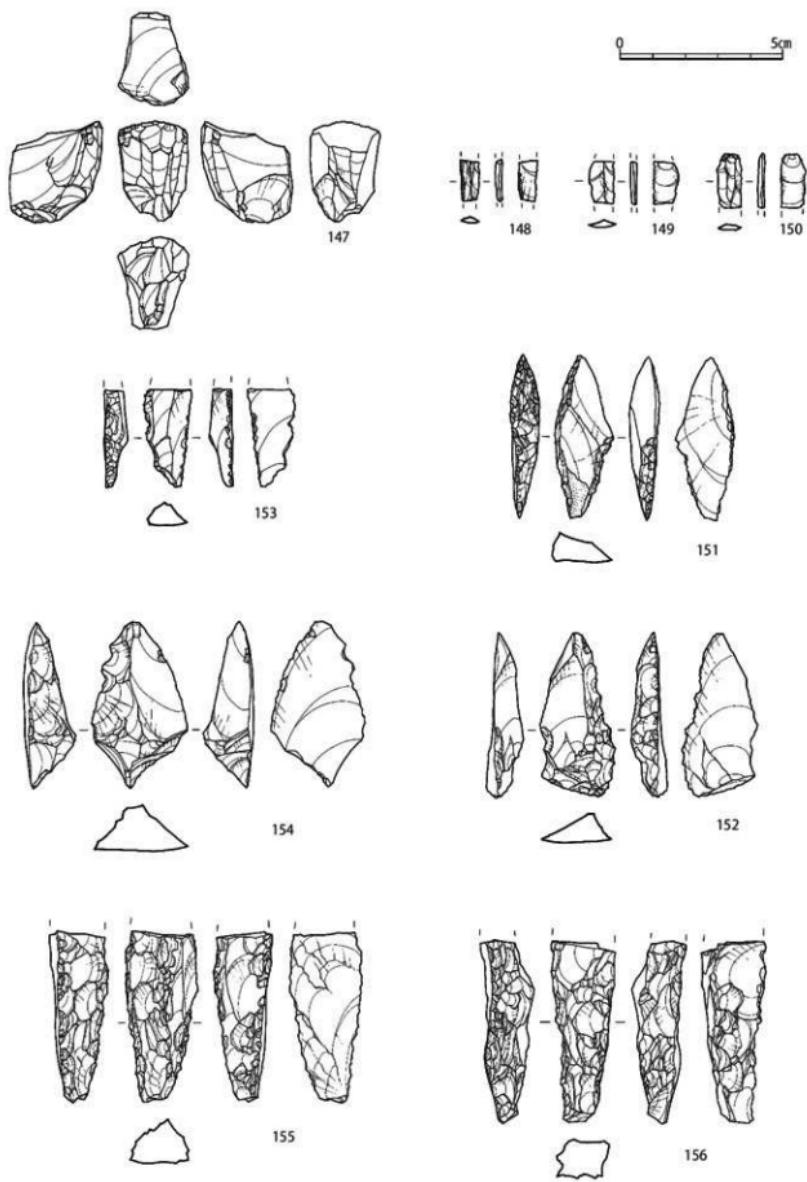
168は磨石である。左右側面に磨面が見られる。花崗斑岩製である。

169は敲石である。下端部に敲打痕が見られる。砂岩製である。

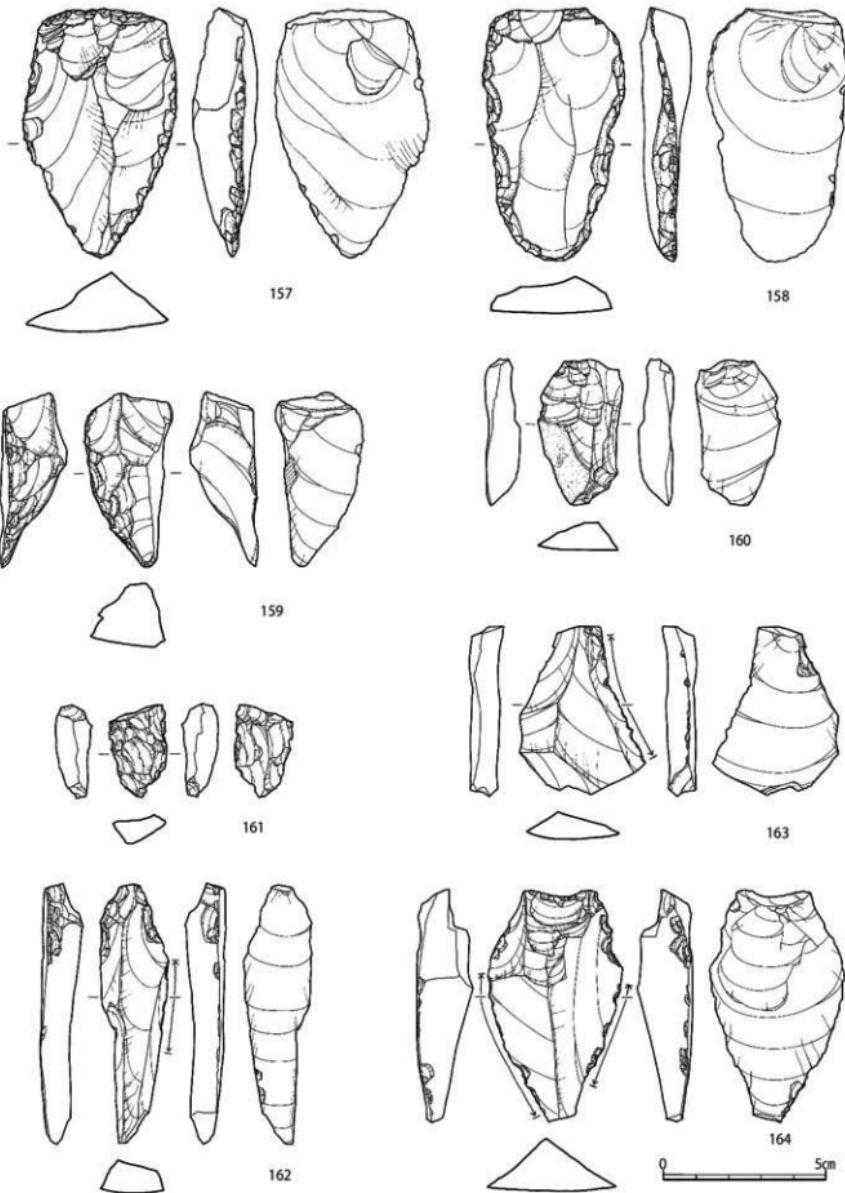
170は台石である。チャート製である。

	流紋岩				ホルンフェルス	チャート	砂岩	凝灰岩	花崗岩	黒曜石	合計
	I類	II類	III類	IV類							
細石刃核	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
細石刃	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ナイフ形石器	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
角錐状石器	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
削器	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
二次加工剥片	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
微細剥離ある剥片	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
剥片・碎片	80	19	16	8	18	7	0	0	0	0	148
石核	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6
磨石・敲石	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
台石	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	94	26	19	9	19	8	2	0	1	1	179

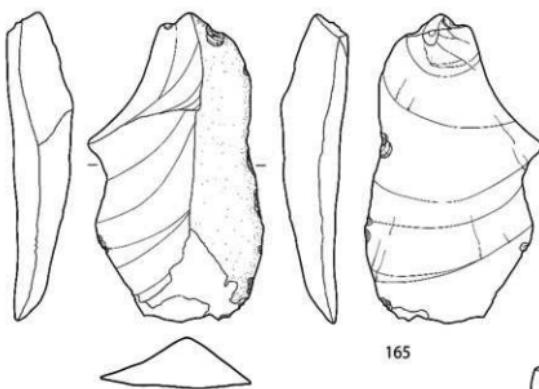
第8表 第IV期出土石器石材別組成表



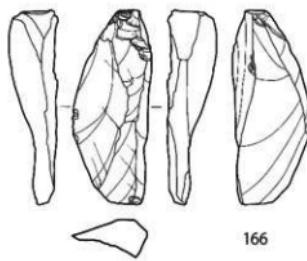
第79圖 第IV期石器實測圖1 (S=2/3)



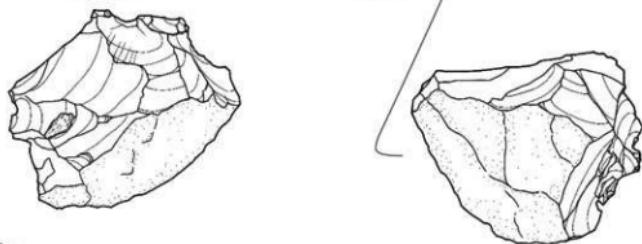
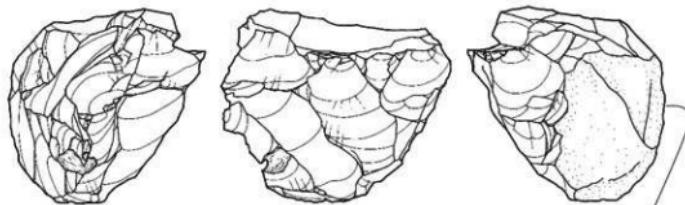
第80圖 第IV期石器實測圖 2 (S=2/3)



165



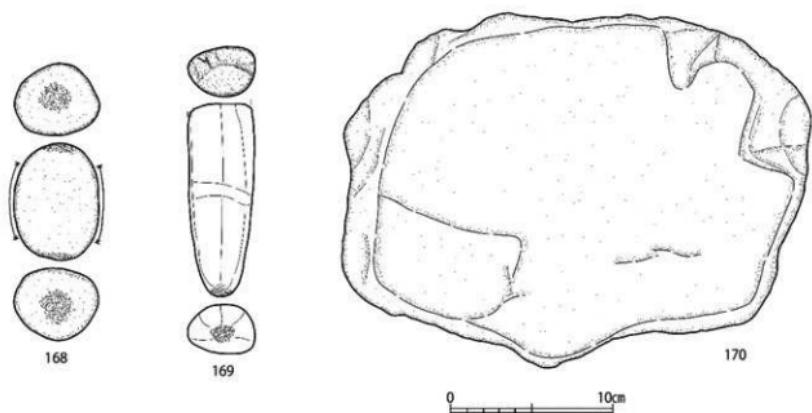
166



167



第81図 第IV期石器実測図3 (S=2/3)

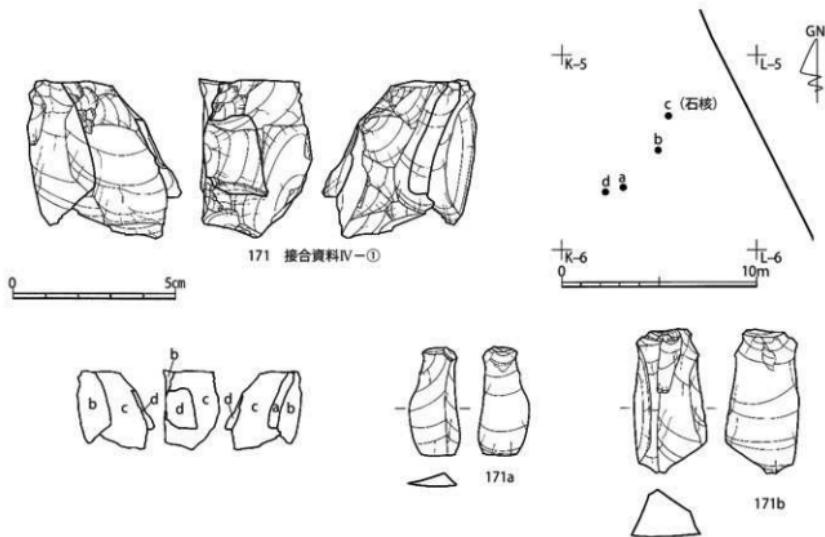


#### (4) 接合資料 (第82図～84図)

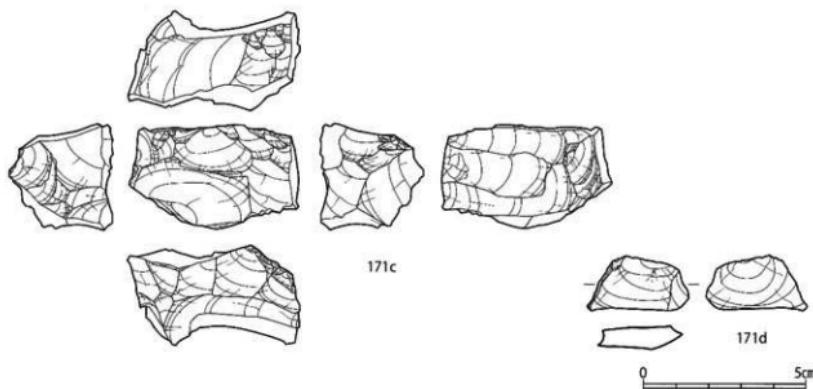
接合資料は12例確認された。そのうち2例の図化を行った。

##### [接合資料171] (第82・83図)

171接合資料IV-①は、R II類型で剥片3点、石核1点の合計3点が接合している。調査区中央部、3号縄群近くのK-5グリッドから出土した。同一の打面から連続して171b、171aと縦長な剥片を作出している。さらに打面を直交させ171dを作出している。171cは剥片を作出した後の残核である。



第82図 第IV期石器実測図4 (S=2/3)、(S=1/3) 接合資料IV-①分布図 (S=1/250)

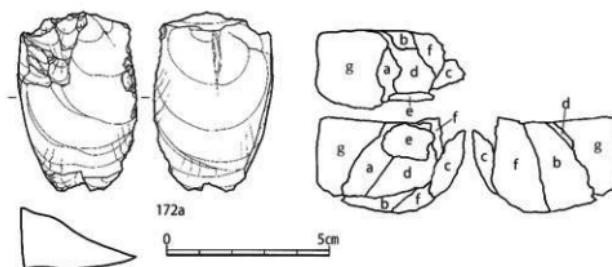
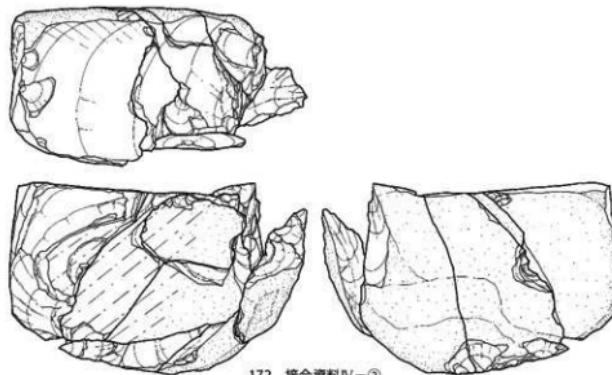


【接合資料172】

(第83図)

172接合資料IV -

②は、R III類製で削器  
1点、剥片5点、石核  
1点の合計7点が接  
合している。調査区中  
央部、2号蝶群近くの  
J-5 グリッドから出土  
した。素材は部分的  
で全体形が把握できな  
いが、亜角蝶の端部を  
用いていると考えられ  
る。蝶の上部を打ち欠  
き、そこで形成された  
分割面を打面とし、正  
面右より172c、172f  
と打点を後退させなが  
ら剥離を行っている。  
172aは、分厚い縱長  
な剥片で、右側縁に連  
続した加工を施した削  
器である。172gは、剥  
片を作出した後の残核  
である。



第83図 第IV期石器実測図5 (S=2/3)